

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成24年6月28日

【事業年度】 第72期(自平成23年4月1日至平成24年3月31日)

【会社名】 京極運輸商事株式会社

【英訳名】 Kyogoku unyu shoji Co., Ltd

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 山谷 純

【本店の所在の場所】 東京都中央区日本橋浜町一丁目2番1号

【電話番号】 東京03(5825)7131

【事務連絡者氏名】 代表取締役常務 羽生 康 秀

【最寄りの連絡場所】 東京都中央区日本橋浜町一丁目2番1号

【電話番号】 東京03(5825)7131

【事務連絡者氏名】 代表取締役常務 羽生 康 秀

【縦覧に供する場所】 株式会社大阪証券取引所
(大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第68期	第69期	第70期	第71期	第72期
決算年月	平成20年 3月	平成21年 3月	平成22年 3月	平成23年 3月	平成24年 3月
売上高 (千円)	10,505,906	9,579,244	8,183,145	8,557,116	9,338,347
経常利益又は 経常損失() (千円)	50,603	97,435	119,881	106,074	173,082
当期純利益又は 当期純損失() (千円)	46,841	107,947	104,552	18,780	46,309
包括利益 (千円)				113,326	209,113
純資産額 (千円)	2,685,950	2,447,673	2,533,283	2,577,624	2,682,674
総資産額 (千円)	6,665,705	6,131,961	6,095,726	6,196,923	6,717,728
1株当たり純資産額 (円)	823.05	754.03	790.55	804.45	836.83
1株当たり当期純利益 金額又は当期純損失金 額() (円)	14.67	33.82	32.75	5.88	14.51
潜在株式調整後1株当 たり当期純利益金額 (円)					
自己資本比率 (%)	39.4	39.3	41.4	41.4	39.8
自己資本利益率 (%)	1.8	4.5	4.1	0.7	1.7
株価収益率 (倍)	38.2		9.7	58.8	26.9
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	19,436	463,579	191,475	184,461	665,897
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	23,292	159,097	12,728	76,363	171,139
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	223,809	30,043	314,057	238,929	140,546
現金及び現金同等物 の期末残高 (千円)	754,784	1,029,223	919,369	788,538	1,142,750
従業員数 (人)	378	360	324	312	301

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額について、第68期、第70期、第71期及び第72期は潜在株式が存在しないため、また、第69期は1株当たり当期純損失であり、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3 従業員数は、就業人員数を表示しております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第68期	第69期	第70期	第71期	第72期
決算年月	平成20年 3月	平成21年 3月	平成22年 3月	平成23年 3月	平成24年 3月
売上高 (千円)	7,285,270	6,414,552	5,709,005	5,755,825	5,941,464
経常利益又は 経常損失() (千円)	21,096	127,517	77,982	17,309	58,749
当期純利益又は 当期純損失() (千円)	8,827	99,314	55,800	17,430	15,602
資本金 (千円)	160,000	160,000	160,000	160,000	160,000
発行済株式総数 (千株)	3,200	3,200	3,200	3,200	3,200
純資産額 (千円)	2,339,067	2,135,929	2,203,982	2,190,548	2,276,139
総資産額 (千円)	5,739,826	5,293,157	5,246,125	5,252,401	5,560,888
1株当たり純資産額 (円)	731.68	668.20	689.49	685.32	712.11
1株当たり配当額 (うち1株当たり 中間配当額) (円)	3 ()	()	3 ()	3 ()	3 ()
1株当たり当期純利益 金額又は当期純損失金 額() (円)	2.76	31.07	17.46	5.45	4.88
潜在株式調整後1株当 たり当期純利益金額 (円)					
自己資本比率 (%)	40.8	40.4	42.0	41.7	40.9
自己資本利益率 (%)	0.4	4.6	2.5	0.8	0.7
株価収益率 (倍)	202.9		18.2		79.9
配当性向 (%)	108.7		17.2		61.5
従業員数 (人)	297	285	248	239	242

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額について、第68期、第70期及び第72期は潜在株式が存在しないため、また、第69期及び第71期は1株当たり当期純損失であり、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3 従業員数は、就業人員数を表示しております。

2 【沿革】

昭和22年5月 個人営業を改め、中央区新川に(株)京極社設立、社長 京極友助。
設立時の事業所は川崎作業所(現・川崎支店)、金町作業所(名称変更により金町事業所 平成16年10月廃止)、横浜出張所(現・京浜支店)。

昭和25年3月 一般区域貨物自動車運送事業再開。

昭和26年2月 ドラム缶工場建設、操業開始(昭和36年11月ドラム缶製作部門分離)。

昭和27年6月 税関貨物取扱人の免許を得て、通関業を開始。

昭和33年3月 (株)弥生京極社を設立(現・持分法適用関連会社)。

昭和36年12月 市川支店(名称変更により市川事業所 平成10年12月廃止)開設。

昭和37年4月 五井営業所(現・京葉支店)開設。

昭和39年10月 京浜港における一般港湾運送事業の免許取得。

昭和39年11月 (株)京極社を京極運輸商事(株)と改称。

昭和41年9月 日本証券業協会に登録、株式店頭売買開始(現・大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)上場)。

昭和43年8月 浮島倉庫開設、倉庫営業開始。

昭和46年4月 タンククリーニング部門を分離、日本タンクサービス(株)設立(現・連結子会社)。
ドラム洗滌部門を分離、サンドラムサービス(株)(現・サンドラム(株) 平成20年12月株式譲渡)設立。

昭和48年3月 石油部門を分離、当社全額出資にて京極石油(株)(JX日鉱日石エネルギー(株)特約店)設立(現・連結子会社)。

昭和48年5月 小樽事業所(平成9年9月廃止)開設。

昭和51年5月 鹿島事業所開設。

昭和54年8月 蔵王事業所開設。

昭和56年5月 当社全額出資にて京浜京極運送(株)(平成23年6月1日吸収合併)設立。

昭和56年9月 中津事業所開設。

昭和61年10月 大阪事業所(名称変更により関西駐在 平成6年6月廃止)開設。

昭和62年11月 苫小牧事業所(名称変更により北海道事業所 平成12年6月廃止)開設。

昭和63年8月 (株)泉州配送センターを子会社(平成5年9月株式譲渡)とし、大阪地区の営業拡充。

昭和63年10月 倉敷事業所開設。
富士事業所開設。

平成2年7月 三菱石油(株)(現・JX日鉱日石エネルギー(株))の関係会社(平成22年7月完全親会社であるJXホールディングス(株)に株式継承)となる。

平成8年3月 (有)本町ビルに出資(平成11年9月出資金売却)。

平成11年8月 関西営業部(平成15年6月廃止)開設。

平成16年4月 当社全額出資にて(有)京極トランスポートサービス(現・(株)TSトランスポート)設立(現・連結子会社)。

平成16年11月 白井事業所設立。

平成18年8月 本社移転(中央区新川より中央区日本橋浜町へ)。

平成22年7月 JXホールディングス(株)の関係会社(JX日鉱日石エネルギー(株)より株式継承)となる。

平成23年6月 京浜京極運送株式会社(100%子会社)を吸収合併。

3 【事業の内容】

当社グループ(当社及び当社の関係会社)は、当社(京極運輸商事株式会社)及び子会社3社、関連会社1社により構成されており、石油・ドラム缶等販売事業、貨物自動車運送事業、港湾運送及び通関事業、倉庫事業、タンク洗滌・修理事業の5部門に係る事業を行っております。また、その他の関係会社等にはJX日鉱日石エネルギー株式会社があります。

当社グループの事業内容及び当社と関係会社等の位置付けは次のとおりであります。

なお、次の5部門は「第5 経理の状況 1 (1)連結財務諸表 注記事項」に掲げるセグメント情報の区分と同一であります。

(石油・ドラム缶等販売事業)

本業は顧客の需要に応じて石油類容器の賃貸借及び売買、また、石油製品類及びその副産物の売買を主とし、これら販売における配送業務を行っております。

〔主な関係会社〕

京極石油(株)

(貨物自動車運送事業)

本業は顧客の需要に応じ自動車により貨物を運送し、その対価として運賃を収受するものであり、道路運送法による一般貨物自動車運送事業の許可を受けて、日本各地に拠点を設け主として関東一円の営業を行っております。また、当該事業の関連施設における構内作業を行っております。

業務の主力はタンクローリーによる石油類、化学製品等の液体貨物輸送で普通トラックは一般貨物及び容器類、石油類、化学製品類等の輸送を行っております。また、顧客の需要に応じて自己及び他人の名をもって、貨物運送業者による貨物運送の取次、受取、委託を行い対価を収受するもので貨物運送取扱事業法による許可及び登録を受けて営業活動を行うものであります。

〔主な関係会社〕

(株)TSトランスポート、(株)弥生京極社

(港湾運送及び通関事業)

本業は荷主及び船舶運行業者の委託を受け、貨物の受渡しを伴う港湾荷役、貨物の本船への積込み、または本船からの取卸し貨物の上屋への搬出入、若しくは船舶からの積卸し、またはこれら貨物の上屋における保管、荷捌等の作業を行うもので当社は次の免許を受けております。

一般港湾運送事業(一種限定)

港湾荷役事業(沿岸限定)

通関事業

(倉庫事業)

本業は倉庫業法による許可を受けて顧客のために物品を倉庫に保管し、保管貨物の運送、入出庫及びはい替え等の諸作業を行いその対価として、保管料、運賃及び荷役料を収受するものであります。また、当該事業の関連施設における構内作業を行っております。

(タンク洗滌・修理事業)

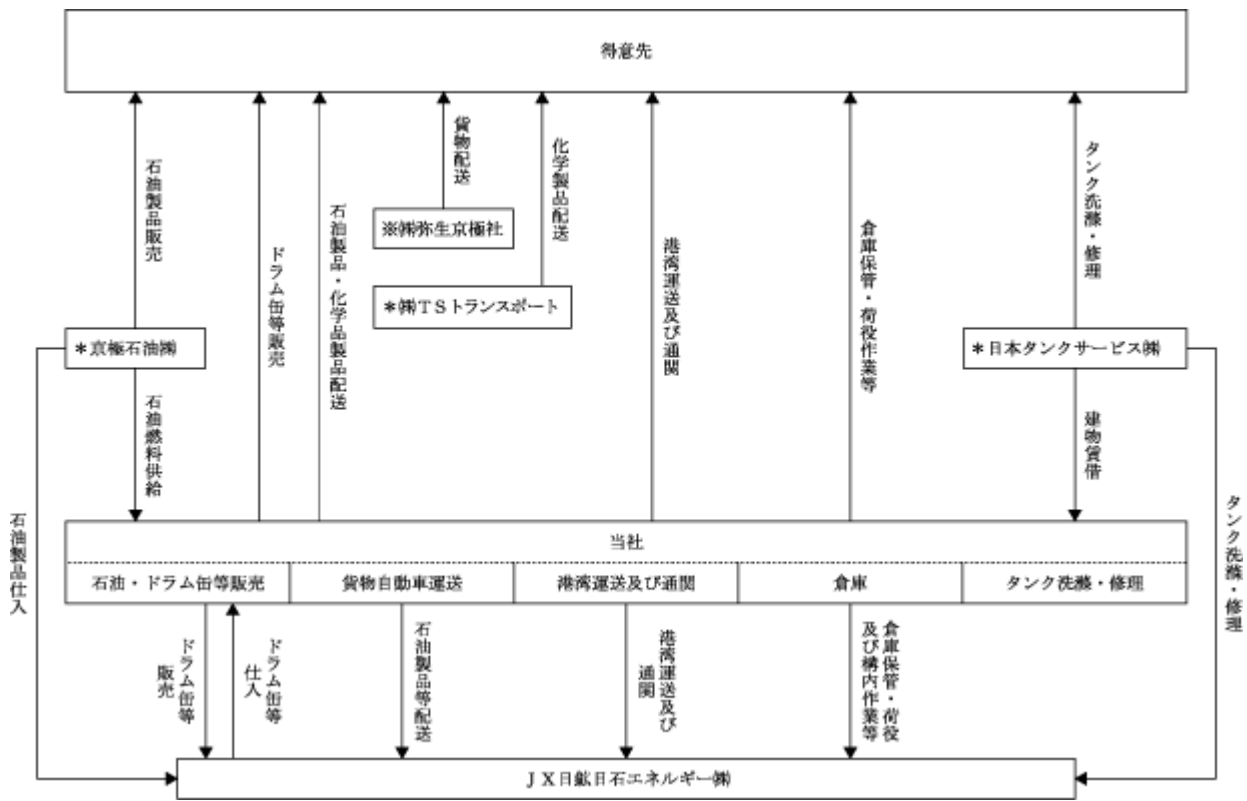
本業は顧客の需要に応じて石油・化学製品及びその他の貯蔵タンクの洗滌・修理並びに配管工事等を行うものであります。

〔主な関係会社〕

日本タンクサービス(株)

[事業の系統図]

以上述べた事項を事業系統図によって示しますと次のとおりであります。



* 印は、連結子会社

印は、持分法適用関連会社

4 【関係会社の状況】

(1) 連結子会社

名称	住所	資本金 (千円)	主要な事業 の内容	議決権の所有 (又は被所有) 割合(%)	関係内容
京極石油(株) (注) 2、3	東京都 中央区	40,000	石油・ドラム 缶等販売事業	100.0	当社所有のスタンド及び建物を賃借しております。 役員兼務等...有
日本タンクサービス(株) (注) 2、4	川崎市 川崎区	30,000	タンク洗滌・ 修理事業	96.7	当社所有の建物を賃借しております。 役員兼務等...有
(株)TSトランスポート (注) 2	川崎市 川崎区	90,000	貨物自動車運 送事業	100.0	関東一円の貨物運送を受託して おり、資金援助を受けており ます。 役員兼務等...有

(注) 1 「主要な事業の内容」欄には、セグメント情報に記載された名称を記載しております。

2 特定子会社に該当しております。

3 京極石油(株)については、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く。)の連結売上高に占める割合が100分の10を超えております。

主要な損益情報等 (1) 売上高 1,958,934千円
(2) 経常損失() 896千円
(3) 当期純損失() 9,313千円
(4) 純資産額 146,048千円
(5) 総資産額 470,145千円

4 日本タンクサービス(株)については、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く。)の連結売上高に占める割合が100分の10を超えております。

主要な損益情報等 (1) 売上高 1,249,688千円
(2) 経常利益 102,660千円
(3) 当期純利益 51,351千円
(4) 純資産額 333,484千円
(5) 総資産額 676,074千円

(2) 持分法適用関連会社

名称	住所	資本金 (千円)	主要な事業 の内容	議決権の所有 (又は被所有) 割合(%)	関係内容
(株)弥生京極社	横浜市 鶴見区	53,500	貨物自動車運 送事業	46.0	役員兼務等...有

(3) その他の関係会社

名称	住所	資本金 (千円)	主要な事業 の内容	議決権の所有 (又は被所有) 割合(%)	関係内容
JXホールディングス(株) (注)	東京都 千代田区	100,000,000	子会社及びグ ループ会社の 経営管理業務	(30.7)	

(注) 有価証券報告書を提出しております。

5 【従業員の状態】

(1) 連結会社の状態

平成24年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(人)
石油・ドラム缶等販売事業	9
貨物自動車運送事業	196
港湾運送及び通関事業	37
倉庫事業	15
タンク洗滌・修理事業	21
全社(共通)	23
合計	301

- (注) 1 従業員数は就業人員数(当社グループからグループ外への出向者を除き、グループ外から当社グループへの出向者を含む。)を記載しております。
2 全社(共通)として記載されている従業員数は、特定のセグメントに区分できない管理部門に所属しているものであります。

(2) 提出会社の状態

平成24年3月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
242	45.11	17.01	4,997,316

セグメントの名称	従業員数(人)
石油・ドラム缶等販売事業	7
貨物自動車運送事業	160
港湾運送及び通関事業	37
倉庫事業	15
全社(共通)	23
合計	242

- (注) 1 従業員数は就業人員数(当社から社外への出向者を除き、社外から当社への出向者を含む。)を記載しております。
2 平均年間給与は、賞与及び時間外賃金を含んでおります。

(3) 労働組合の状態

当社には、京極運輸商事労働組合が組織されており、平成24年3月31日現在の組合員数は190人でユニオンショップ制であります。なお、労使関係については特に記載すべき事項はありません。

また、連結子会社である京極石油(株)、日本タンクサービス(株)及び(株)T S トランスポートには労働組合はありません。

第2 【事業の状況】

1 【業績等の概要】

(1) 業績

当連結会計年度におけるわが国経済は、昨年3月11日に発生した東日本大震災の影響により生産活動の停滞や個人消費の落ち込みが見られましたが、サプライチェーンの回復、生産設備の復旧に伴い、経済活動は順次回復してまいりました。しかしながら、下期に入ると、タイにおける洪水の影響及び欧州債務問題の長期化による海外経済の減速、そして超円高の進行等により、景気は足踏み状態となりました。

物流業界におきましては、震災による影響は回復傾向にあるものの、円高による輸出貨物取扱量の減少に加えて、国内消費の需要減により、国内貨物の輸送量は、依然として低迷状況が続いております。また、同業者間の競争激化や今年に入ってから燃料価格の高騰もあり、引き続き厳しい状況で推移いたしました。

こうした環境のなか、当社グループは営業力強化による売上拡大とコスト削減に取組みました。その結果、売上高は9,338百万円と前連結会計年度に比べ781百万円(9.1%)の増収となりました。

これを商品売上と役務売上に分けると、前連結会計年度に比べ前者は393百万円(12.3%)の増収、後者は388百万円(7.2%)の増収となります。

次に損益面につきましては、原油価格の高騰による燃料費の増加等もありましたが、タンク洗滌・修理事業における増益等により、営業利益は125百万円と前連結会計年度に比べ72百万円(135.7%)の増益となりました。また、受取配当金及び雇用安定助成金等の増加もあり、経常利益は173百万円と前連結会計年度に比べ67百万円(63.2%)の増益となりました。なお、投資有価証券評価損等の特別損失もありましたが、当期純利益は46百万円と前連結会計年度に比べ28百万円(146.6%)の増益となりました。

なお、セグメント別の業績は次のとおりであります。

石油・ドラム缶等販売事業

ドラム缶等販売においては、石油業界への再生缶の販売数量増加、また石油販売においては、販売数量及び販売平均単価の増加等により増収となったものの、原油価格の高騰により仕入費も増加しました。結果として、売上高は3,598百万円と前連結会計年度と比べ395百万円(12.3%)の増収となりましたが、セグメント利益(営業利益)は53百万円と前連結会計年度と比べ14百万円(21.1%)の減益となりました。

貨物自動車運送事業

化学品輸送における新規配送の受注もありましたが、主要取引先の輸送数量の減少及び石油輸送における震災の影響による輸送数量の減少により減収となったものの、車両賃借料等の固定費が減少しました。結果として、売上高は3,430百万円と前連結会計年度と比べ32百万円(0.9%)の減収となりましたが、セグメント利益(営業利益)は196百万円と前連結会計年度と比べ18百万円(10.3%)の増益となりました。

港湾運送及び通関事業

震災の影響による輸取出扱量の低迷や昨年来から引続いている円高による減収はあったものの、当連結会計年度に実施した子会社の吸収合併の効果により増収となりました。しかしながら、利益率の低い取引の増加等で収益性が悪化しました。結果として、売上高は564百万円と前連結会計年度と比べ38百万円(7.1%)の増収となり、セグメント損失(営業損失)は4百万円と前連結会計年度と比べ13百万円の減益となりました。

倉庫事業

主要取引先の生産調整等があったものの、徹底したコスト削減に努め、結果として、売上高は492百万円と前連結会計年度と比べ21百万円(4.0%)の減収となり、セグメント利益(営業利益)は81百万円と前連結会計年度と比べ11百万円(15.1%)の増益となりました。

タンク洗滌・修理事業

震災により被災したタンク設備の復旧作業や、火力発電設備の修復受注等の復興需要があり、結果として、売上高は1,255百万円と前連結会計年度と比べ401百万円(47.0%)の増収となり、セグメント利益(営業利益)は104百万円と前連結会計年度と比べ60百万円(132.7%)の増益となりました。

(2) キャッシュ・フロー

当連結会計年度における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度に比べ354百万円増加し、当連結会計年度末には1,143百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度において営業活動によって得られた資金は666百万円(前連結会計年度184百万円の獲得)となりました。これは主に、税金等調整前当期純利益及び減価償却費、仕入債務の増加並びに、投資有価証券評価損の計上によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度において投資活動によって使用された資金は171百万円(前連結会計年度76百万円の使用)となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出の増加及び投資活動によるキャッシュ・フローの「その他」に含まれる資産除去債務の履行による支出によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度において財務活動によって使用された資金は141百万円(前連結会計年度239百万円の使用)となりました。これは主に、長期借入金による収入の増加及び長期借入金の返済による支出の減少によるものであります。

2 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

該当事項はありません。

(2) 受注状況

該当事項はありません。

(3) 販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	金額(千円)	前期比(%)
石油・ドラム缶等販売事業	3,597,710	12.3
貨物自動車運送事業	3,429,655	0.9
港湾運送及び通関事業	563,863	7.1
倉庫事業	491,729	4.0
タンク洗滌・修理事業	1,255,390	47.0
合計	9,338,347	9.1

(注) 1 セグメント間の取引については相殺消去しております。

2 主な相手先別の販売実績及び総販売実績に対する割合は次のとおりであります。

相手先	前連結会計年度		当連結会計年度	
	金額(千円)	割合(%)	金額(千円)	割合(%)
J X日鉱日石エネルギー(株)	1,153,705	13.5	1,332,125	14.3

3 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3 【対処すべき課題】

(1) 当社グループの現状認識について

当社グループを取り巻く環境は、内需を中心に景気の持ち直しの動きが続くと見込まれますが、原油価格の高騰や同業者間の競争激化等引き続き厳しい状況が続くものと思われま

す。このような状況のもと、当社グループといたしましては、市場の変化と取引先のニーズに対応した積極的な営業展開を図るとともに、企業の社会的責任を果たすべく安全管理体制の確立とリスク管理やコンプライアンスの徹底を推進し、より一層の内部統制システムの充実を図ってまいります。

(2) 当面の対処すべき課題

石油・ドラム缶等販売事業のうち、石油販売では大震災後の復興の遅れや、原油市況の変動も依然として世界的金融に影響され、見通しが立たず販売数量の確保も厳しく販売競争も益々激化すると思われま

すが、採算販売と優良顧客の獲得に努め、加えて一段の与信管理・経営の効率化を図り、体質の強化及び業績の改善に向けて邁進してまいります。

また、ドラム缶販売では、リサイクルドラムの仕入原価の高騰が続くため、販売価格の見直しを行うことで採算の改善を図ってまいります。また、燃料サーチャージの要請や効率の良い配送により、安定した収益の確保に努めてまいります。

貨物自動車運送事業においては、円高による化学品メーカーの工場の海外移転による国内生産量の減少及び低燃費車の普及並びにエネルギー転換による環境対応等により石油製品需要の減少傾向が、輸送数量の落ち込みに大きく影響してきております。また、原油価格の高騰による燃料費の上昇など、業界を取り巻く環境は厳しい状況にありますが、取引先のニーズにあった物流サービスを充実し、積極的な営業展開を図り、新規顧客及び新規製品等の獲得、既存荷主との取引拡大を推し進め、効率配送を心がけ採算管理に努めてまいります。

港湾運送及び通関事業並びに倉庫事業においては、国際情勢及び為替変動等が大きく売上に影響を及ぼしますが、これまで培ってきた経験から蓄積された高い専門性を活かし、港湾運送及び通関事業においては、得意とする化学品の取扱いを中心に、荷主・貨物の情報を分析し把握することにより、取引先のニーズに対応した積極的な提案型営業を展開できる体制を整えるとともに、倉庫事業においては、ここ数年の売上減少傾向に歯止めを掛けるべく、積極的な営業展開を図り、新規業務の獲得に努め、同業者間の連携も強化しながら取扱量を増やし売上の拡大に努めてまいります。

タンク洗滌・修理事業においては、石油業界・電力業界等の災害復興工事完了に伴い工事量の減少が想定されますが、既存得意先との緊密を深め、新規得意先の開拓を促進し、事故防止と安全管理に努めてまいります。

(3) 対処方針及び具体的な取組み状況

経営体質の強化のため、「コスト競争力の強化」、「収益の確保」及び「信用の向上」を掲げ、更なる業務改善のもと、全社一丸での取組みを推進しております。

売上拡大のため既存の営業ルートのほか、グループの関連するあらゆるチャネルを利用した営業活動を展開し、また、インターネット上でのホームページを充実したことでアクセス数も増えており、ビジネスチャンスを的確に捉えるとともに広く当社の総合力をアピールしてまいります。

人件費は更に人員の効率の再配分により、コスト改善を図ってまいります。

運輸安全マネジメントに関する取組みとして、全社員に対し輸送の安全の確保が最も重要であるという意識を徹底させ、その実現のため経営トップが主導的な役割を果たし、全社員が一丸となって取り組んでおります。

従業員のモチベーション向上のため、賞与評価制度を導入し、実績主義に基づいた成果配分を実施しており着実な効果が期待されております。

コンプライアンスの活動については、推進月間を設け「企業行動規範」を基にグループ全社をあげて取り組んでおります。

「信用第一」という経営理念に基づき、企業価値を高めていくため、常に透明で公正な経営に努め、コンプライアンスとしての単なる法令順守だけではなく、社会の要請に誠実に応えながら、社会的責任を果たすことに取り組んでおります。

4 【事業等のリスク】

(1) 法規制による影響

当社グループの主要事業である貨物自動車運送事業において、大気汚染にかかわる国及び地方自治体の環境確保による法規制は更に強化が予定されることから、これによる車両代替の設備投資及びコスト増が予想され、企業収益を圧迫することの影響が大であります。

(2) 気候条件の影響

例えば、国内の暖冬による石油類等の輸送量の減少、冷夏による空冷用ガスの輸送量の減少など、気候条件が主として石油・ドラム缶等販売事業、貨物自動車運送事業、港湾運送及び通関事業の損益変動要因となります。

(3) 素材価格の影響

鉄鋼・原油等、素材の価格の高騰が、例えばドラム缶販売量の減少、車両燃料費の高騰など、主として石油・ドラム缶等販売事業(一部)、貨物自動車運送事業の損益変動要因となります。

(4) 海外の需要動向の影響

海外の需要動向が得意先の販売量、仕入量に影響を与え、結果、主として港湾運送及び通関事業、倉庫事業の損益変動要因となります。

(5) 入札制度による影響

タンク洗滌・修理事業、石油・ドラム缶等販売事業(一部)の受注は入札制度で行われます。入札制度により他社がより廉価な価格で入札してくる場合など、入札制度での失注が当該事業の損益変動要因となります。

なお、上述した将来に関する事項は有価証券報告書提出日現在において判断したものであります。

5 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

6 【研究開発活動】

該当事項はありません。

7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 財政状態の分析

(流動資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べ376百万円増加し、3,015百万円となりました。これは主に、震災復興需要における取引の増加に伴い、現金及び預金が354百万円、受取手形及び売掛金が51百万円それぞれ増加したことによるものであります。

(固定資産)

固定資産は、前連結会計年度末に比べ144百万円増加し、3,703百万円となりました。これは主に、営業車両の代替などによるリース資産（純額）の増加58百万円、保有株式の時価評価額が上昇したことにより投資有価証券が73百万円増加したことによるものであります。

(流動負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べ319百万円増加し、2,640百万円となりました。これは主に、震災復興需要における仕入費の増加に伴い支払手形及び買掛金の増加171百万円、未払法人税等の増加58百万円、有形固定資産の取得及び軽油引取税の増加により流動負債の「その他」に含まれる未払金が60百万円増加したことによるものであります。

(固定負債)

固定負債は、前連結会計年度末に比べ97百万円増加し、1,395百万円となりました。これは主に、営業車両の代替などによるリース債務の増加65百万円、退職給付引当金が48百万円増加したことによるものあります。

(純資産)

純資産は、前連結会計年度末に比べ105百万円増加し、2,683百万円となりました。これは主に、当期純利益等による利益剰余金の増加37百万円、保有株式の時価評価額が上昇したことによりその他有価証券評価差額金が67百万円増加したことによるものであります。

(2) 経営成績の分析

当連結会計年度の売上高につきましては、石油・ドラム缶等販売事業での販売平均単価の上昇及びタンク洗滌・修理事業等での震災復興需要等があり、前連結会計年度に比べ増収となりました。

損益面につきましては、原油価格の高騰による燃料費の増加及び投資有価証券評価損等の特別損失もありましたが、タンク洗滌・修理事業における増益及び受取配当金、雇用安定助成金等の増加により、前連結会計年度に比べ増益となりました。

今後の当社グループを取り巻く環境は、原油価格の高騰等の懸念材料はありますが、当社グループといたしましては、各荷主にサーチャージルールの構築をお願いするとともに、積極的な営業展開を図り、売上の増進に努めるとともに、併せて業務効率化の促進、人財育成、安全管理を最重要課題として、さらなる経営改善に努めてまいります。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度における当社グループ(当社及び連結子会社)の設備投資等の総額は299,641千円であり、セグメント別の主要な設備投資について示しますと、貨物自動車運送事業の輸送能力維持増強として増車・代替あわせて253,657千円(うち、リース資産は126,625千円)であります。

また、当連結会計年度において、次の主要な設備を除却・売却いたしました。その内容は以下のとおりであります。

(1) 提出会社

事業所名	所在地	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(千円)
京葉支店	千葉県市原市	貨物自動車運送事業	営業車両	3,939

(2) 国内子会社

会社名	所在地	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(千円)
日本タンクサービス(株)	神奈川県川崎市川崎区	タンク洗滌・修理事業	タンク洗滌設備	33,080

2 【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は、以下のとおりであります。

(1) 提出会社

平成24年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額(千円)						従業員数 (人)	
			車両運搬具	建物及び 構築物	土地 (面積㎡)	土地	リース資産	その他		合計
川崎支店 (神奈川県 川崎市川崎区)	貨物自動車 運送事業	運送設備	21,488	41,823	(476.00) 3,931.18	358,673	61,508	2,929	486,421	41 (2)
京葉支店 (千葉県市原市)	貨物自動車 運送事業	運送設備	111,755	118,719	(7,786.96) 12,836.13	321,687	72,711	5,911	630,783	91 (1)
京浜支店 (神奈川県 川崎市川崎区)	港湾運送及 び通関事業 倉庫事業	港湾運送 及び通関 設備 倉庫設備	18,347	482,337	(1,733.43) 14,599.81	74,475	18,141	14,708	608,008	52 (2)
容器部 (東京都中央区)	石油・ドラ ム缶等販売 事業	商品販売 設備	997	1,462	(1,744.30)	-	-	18	2,477	7
輸送管理部 (東京都中央区)	貨物自動車 運送事業	運送設備	27,439	23,902	2,000.00	64,893	19,908	2,613	138,755	28
本店資産管理 (東京都中央区)	貨物自動車 運送事業	賃貸用設 備	-	36,107	3,396.75	294,470	-	1	330,578	-
本店 (東京都中央区)	全社管理 業務	その他設 備	-	4,584	-	-	72,800	12,598	89,982	18
その他		福利厚生 設備	-	17,652	1,331.43	345	-	343	18,340	-

- (注) 1 土地面積の()は借用面積で外数であります。
2 帳簿価額のうち「その他」は機械及び装置、工具、器具及び備品の合計であります。
3 従業員数の()は各事業所において全社管理業務に該当する従業員数で外数であります。
4 上記の他、連結会社以外から賃借している主要な設備の内容は、以下のとおりであります。

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	年間リース料 (千円)	リース契約残高 (千円)
川崎支店 (神奈川県 川崎市川崎区)	貨物自動車運送事業	営業車両	30,245	8,940
京葉支店 (千葉県市原市)	貨物自動車運送事業	営業車両	116,249	121,180
京浜支店 (神奈川県 川崎市川崎区)	港湾運送及び通関事業	営業車両	7,240	7,887
容器部 (東京都中央区)	石油・ドラ ム缶等販売 事業	営業車両	28,741	13,342
輸送管理部 (東京都中央区)	貨物自動車運送事業	営業車両	18,330	9,837

(2) 国内子会社

平成24年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(千円)						従業員数 (人)	
				車両運搬具	建物及び 構築物	土地 (面積㎡)	土地	リース資産	その他		合計
京極石油㈱	本店 (東京都 中央区)	石油・ド ラム缶等 販売事業 全社的管 理業務	その他設 備	-	-	-	-	-	330	330	2
日本タンク サービス㈱	水島事業所 (岡山県 倉敷市)	タンク洗 滌・修理 事業	タンク洗 滌設備	-	44	-	-	-	5,822	5,866	3
	仙台出張所 (宮城県 仙台市)	タンク洗 滌・修理 事業	タンク洗 滌設備	7,738	-	-	-	-	29,864	37,602	-
	千葉出張所 (千葉県 市原市)	タンク洗 滌・修理 事業	タンク洗 滌設備	27	-	-	-	-	9,461	9,488	-
	本店 (神奈川県 川崎市 川崎区)	タンク洗 滌・修理 事業	タンク洗 滌設備	83	139	-	-	-	57,827	58,049	18
㈱T S トラン スポート	川崎事業所 (神奈川県 川崎市 川崎区)	貨物自動 車運送事 業	運送設備	6,950	1,004	-	-	-	1	7,955	19
	鹿島事業所 (茨城県 神栖市)	貨物自動 車運送事 業	運送設備	4,389	220	-	-	32,675	643	65,650	15
	本店 (神奈川県 川崎市 川崎区)	貨物自動 車運送事 業	運送設備	-	20,617	2,544.88	159,345	-	-	179,962	2

(注) 1 土地面積の()は借用面積で外数であります。

2 帳簿価額のうち「その他」は機械及び装置、工具、器具及び備品の合計であります。

3 上記の他、連結会社以外から賃借している主要な設備の内容は、以下のとおりであります。

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	年間リース料 (千円)	リース契約残高 (千円)
日本タンクサー ビス㈱	本店 (神奈川県 川崎市川崎区)	タンク洗滌・修理事業	車両	5,320	10,715
㈱T S トラン スポート	川崎事業所 (神奈川県 川崎市川崎区)	貨物自動車運送事業	営業車両	18,829	3,779
	鹿島事業所 (茨城県神栖市)	貨物自動車運送事業	営業車両	10,680	590

3 【設備の新設、除却等の計画】

当社グループにおける重要な設備の新設、除却等の計画は以下のとおりであります。

(1) 重要な設備の新設等

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	投資予定額		資金調達 方法	着手年月	完了予定 年月
				総額 (千円)	既支払額 (千円)			
提出会社	川崎支店 (神奈川県 川崎市川 崎区)	貨物自動車運送事業	営業車両	14,830		借入及び 自己資金	平成24年 6月	平成24年 12月
	京葉支店 (千 葉縣市原市)	貨物自動車運送事業	営業車両	176,327		借入及び 自己資金	平成24年 4月	平成25年 3月
	輸送管理部 (東京都中央区)	貨物自動車運送事業	営業車両	35,140		借入及び 自己資金	平成24年 7月	平成25年 3月
(株)T S トラ ンспорт	川崎支店 (神奈川県 川崎市川 崎区)	貨物自動車運送事業	営業車両	11,461		自己資金	平成24年 4月	平成25年 1月

(2) 重要な設備の除却等

経常的な設備の更新のための除売却を除き、重要な設備の除売却の計画はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	12,000,000
計	12,000,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成24年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成24年6月28日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	3,200,000	3,200,000	大阪証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は100株であります。
計	3,200,000	3,200,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
昭和47年12月1日	1,000,000	3,200,000	50,000	160,000	385	1,072

(注) 有償 株主割当 4株につき1株
有償 第三者割当 発行価格 1株当たり50円
利益準備金の資本組入(1株につき0.1株)

(6) 【所有者別状況】

平成24年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)							単元未満株式の状況(株)	
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他		計
					個人以外	個人			
株主数(人)		4	4	33	1		218	260	
所有株式数(単元)		4,980	401	20,102	1		6,486	31,970	3,000
所有株式数の割合(%)		15.58	1.25	62.88			20.29	100.00	

(注) 1 自己株式3,681株は、「個人その他」に36単元、「単元未満株式の状況」に81株含まれております。
2 「その他の法人」には、証券保管振替機構名義の株式が3単元含まれております。

(7) 【大株主の状況】

平成24年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
J Xホールディングス株式会社	東京都千代田区大手町2-6-3	977	30.54
石田 春久	京都府京都市	178	5.58
明治安田生命保険相互会社 (常任代理人)資産管理サービス 信託銀行株式会社	東京都千代田区丸ノ内2-1-1 (東京都中央区晴海1-8-12)	160	5.00
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸ノ内2-7-1	159	4.97
三菱UFJ信託銀行株式会社 (常任代理人)日本マスタートラスト信託銀行株式会社	東京都千代田区丸ノ内1-4-5 (東京都港区浜松町2-11-3)	159	4.97
京北倉庫株式会社	東京都北区堀船2-30-3	157	4.89
京極 紳	東京都品川区	153	4.78
株式会社日輪	東京都中央区湊3-11-6	136	4.24
高橋産業株式会社	神奈川県川崎市川崎区浜町3-3-16	108	3.36
神奈川三菱ふそう自動車販売株式会社	神奈川県横浜市鶴見区安善町2-1-7	101	3.16
計		2,287	71.49

(8) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成24年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 3,600		権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
	(相互保有株式) 普通株式 10,000		同上
完全議決権株式(その他) (注) 1	普通株式 3,183,400	31,834	同上
単元未満株式(注) 2	普通株式 3,000		同上
発行済株式総数	3,200,000		
総株主の議決権		31,834	

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が300株(議決権3個)含まれております。

2 「単元未満株式数」には、当社保有の自己株式81株が含まれております。

【自己株式等】

平成24年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 京極運輸商事株式会社	中央区日本橋浜町1-2-1	3,600		3,600	0.11
(相互保有株式) 株式会社弥生京極社	横浜市鶴見区小野町45	10,000		10,000	0.31
計		13,600		13,600	0.42

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第3号による普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(千円)
当事業年度における取得自己株式	74	29
当期間における取得自己株式		

(注) 当期間における取得自己株式には、平成24年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式				
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式				
その他				
保有自己株式数	3,681		3,681	

(注) 当期間における保有自己株式数には平成24年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含まれておりません。

3 【配当政策】

当社は、利益配分について将来の事業展開と経営体制の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、安定した配当を継続していくことを基本方針としており、定款においても中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当ができるよう定めております。

これらの配当金の決定機関は期末配当につきましては株主総会、中間配当につきましては取締役会であります。

当期の配当につきましては、上記方針に基づき、1株当たり3円の配当を実施することを決定いたしました。内部留保につきましては、同業他社との激しい競争に対処すべく、営業力強化のため有効な設備に充当してまいりたいと考えております。

当社は、取締役会の決議により、毎年9月30日を基準日として中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決算年月日	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)
平成24年6月28日 定時株主総会決議	9,589	3

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第68期	第69期	第70期	第71期	第72期
決算年月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月
最高(円)	650	560	350	441	420
最低(円)	400	305	241	272	326

(注) 最高・最低株価は、平成22年3月31日以前はジャスダック証券取引所におけるものであり、平成22年4月1日から平成22年10月11日までは大阪証券取引所(JASDAQ市場)におけるものであり、平成22年10月12日以降は大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成23年10月	11月	12月	平成24年1月	2月	3月
最高(円)	400	400	420	399	409	408
最低(円)	399	400	367	385	387	391

(注) 最高・最低株価は、大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。

5 【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (百株)
代表取締役 社長		山 谷 純	昭和24年9月19日生	昭和48年4月 平成11年4月 15年4月 16年7月 19年6月	三菱石油株式会社入社(現・J X 日鉱日石エネルギー株式会社) 同社北海道支店副支店長 同社販売部副部長 株式会社N O S 代表取締役社長 当社代表取締役社長(現職)	(注) 1	30
代表取締役常 務	輸送部門・ 港運倉庫部 門担当	羽 生 康 秀	昭和25年9月25日生	昭和48年10月 平成10年6月 14年6月 17年5月 17年6月 20年6月 21年5月 21年6月 22年6月	当社入社 人事部長 取締役人事部長 京浜京極運送株式会社代表取締役 社長 取締役総務部長 取締役業務部長 株式会社T S トランスポート代表 取締役社長 常務取締役業務部長 代表取締役常務(現職)	(注) 1	31
常務取締役	業務部門・ 経理部門・ 容器部門担 当	湊 英 夫	昭和31年10月12日生	昭和55年4月 平成10年6月 18年4月 20年4月 21年6月 24年6月	三菱石油株式会社入社(現・J X 日鉱日石エネルギー株式会社) 同社中部支店販売2グループマ ネージャー 同社経営管理第2本部購買部副部 長 同社関西支店副支店長 岩崎産業株式会社出向 当社常務取締役(現職)	(注) 2	
取締役	容器営業部 長	小 林 健 一	昭和27年7月9日生	昭和52年4月 平成17年4月 19年6月 22年6月	当社入社 容器営業部副部長 容器営業部長 取締役容器営業部長(現職)	(注) 1	13
取締役	京葉支店長	千 代 敬 三	昭和28年3月5日生	昭和50年4月 平成9年4月 17年4月 22年5月 23年6月	当社入社 浜川崎支店次長 川崎支店副支店長 京葉支店副支店長 取締役京葉支店長(現職)	(注) 1	18
取締役	京浜支店長	中 野 規 夫	昭和27年10月25日生	昭和51年3月 平成18年7月 22年6月 23年6月	当社入社 京浜支店副支店長 京浜支店長 取締役京浜支店長(現職)	(注) 1	13
取締役	川崎支店長	金 子 啓 一	昭和28年8月17日生	昭和48年3月 平成20年6月 22年5月 24年6月	当社入社 京葉支店副支店長 川崎支店長 取締役川崎支店長(現職)	(注) 2	
常勤監査役		二 上 茂	昭和24年7月12日生	昭和47年3月 平成17年4月 19年6月 21年6月 22年6月	当社入社 経理部副部長 経理部長 内部監査室長 常勤監査役(現職)	(注) 3	15

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (百株)
監査役		岩井 一雄 (注) 5	昭和26年 8月23日生	昭和49年 4月 平成11年 2月 14年 6月 16年 3月 16年 6月 16年 6月 20年 6月 20年 8月 22年 4月	三菱信託銀行株式会社入社(現・三菱UFJ信託銀行株式会社) 同社営業第3部長 同社執行役員グループ営業推進部長 同社執行役員 進和ビル株式会社代表取締役社長 当社監査役(現職) 進和ビル株式会社代表取締役会長 菱進都市開発株式会社代表取締役社長 菱進ホールディングス株式会社代表取締役社長(現職)	(注) 4	
監査役		河田 広毅 (注) 5	昭和35年 3月27日生	昭和58年 4月 平成13年 4月 20年 4月 22年 7月 24年 6月	日本石油株式会社(現・JX日鉱日石エネルギー株式会社) 同社四国支店販売2グループマネージャー 同社CSR推進部監査1グループシニアスタッフ 同社CSR推進部監査1グループ担当マネージャー(現職) 当社監査役(現職)	(注) 4	
計							120

- (注) 1 取締役の任期は、平成23年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成25年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 2 取締役の任期は、平成24年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成25年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 3 常勤監査役の任期は、平成22年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成26年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 4 監査役の任期は、平成24年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成28年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 5 監査役2名は、会社法第2条第16号に定める「社外監査役」であります。

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は創業以来の基本理念である「信用第一」に基づき、総合物流企業としての社会的責任と公共的使命を常に認識し、長期的な企業価値の最大化と、株主利益の確保のため、コーポレート・ガバナンスの確立を重要な経営課題と価値付け、その強化に取り組んでおります。

企業統治の体制

当社のコーポレート・ガバナンス体制につきましては、迅速かつ的確な意思決定を行うことができる以下の機関によって運用する方法を採用しております。

イ．会社の機関の内容

取締役会は取締役7名、監査役3名(平成24年6月28日現在)で構成し、原則として毎月1回(8月休会)、さらに必要に応じ臨時取締役会を開催、法令で定められた事項の他、経営に関する重要事項について審議決定するとともに業務執行に関する報告を行っております。

常務会は代表取締役社長と常務取締役2名で構成し、毎月1回(8月休会)、取締役会付議事項及びその他経営戦略等に関する重要事項の審議を行っております。

経営会議は取締役及び支店長・部長・副支店長・副部長・内部監査室長等の18名で構成し、毎月1回、業績報告をはじめとした情報交換を行い情報の共有化を図っております。

監査役3名は取締役会に出席し、取締役の職務執行を充分監視できる体制となっております。

情報交換会は役付取締役、管理部門各部長、子会社・関連会社役付取締役で構成、年2回開催し、グループ間の業績、利益計画等をはじめとした情報交換を行い情報の共有化を図っております。

ロ．内部統制システム及びリスク管理体制の整備の状況

効率的で透明性の高い経営管理体制を確立するため、以下のような体制を整備しております。

取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制については、コンプライアンスの徹底を当社の最重要課題として位置付け、取締役及び使用人が法令・定款及び経営理念に遵守した行動をとるための「企業行動規範」並びに「コンプライアンス規定」を定めるとともに、法令等遵守に係る相談・通報窓口として「コンプライアンス推進室」を設置しております。

取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制について、取締役の職務執行に係る文書(電磁的記録を含む)は、関連資料とともに「文書管理規定」の定めにより適切に保管・管理し、必要に応じて閲覧可能な体制を整備しております。

損失の危険管理に関する規定その他の体制については、経営に重大な影響を与える様々なリスクを全体的に把握し、リスクが発生する場合に備え、予め必要な対応方針、体制等を整備し、発生したリスクによる損失を最小限に食い止め、再発を防止し、企業価値を保全するための「リスク管理規定」を定めるとともに、リスク管理委員会を設置しております。また、有事の際には、「経営危機対策規定」に従い、社長を対策本部長とする「経営危機対策本部」を設置し、危機管理対策にあたります。

取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制については、取締役会を月1回定期的に開催するほか、必要に応じ適宜臨時に開催し、経営上の重要事項の決定及び取締役相互の業務執行状況の監督等を行っております。また、取締役会に付議される事項については、事前に十分な審議及び議論を行い、取締役の効率的な職務を遂行しております。

当該株式会社並びにその親会社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制については、子会社における取締役、監査役を当社から派遣し、子会社の業務の執行が適正に行われるよう監督するとともに、定期的の子会社との情報交換、人的交流等により連携体制を確立しております。

法的事項は業務部が窓口となり、法律上の判断を必要とする場合には顧問弁護士より適宜助言を受けております。

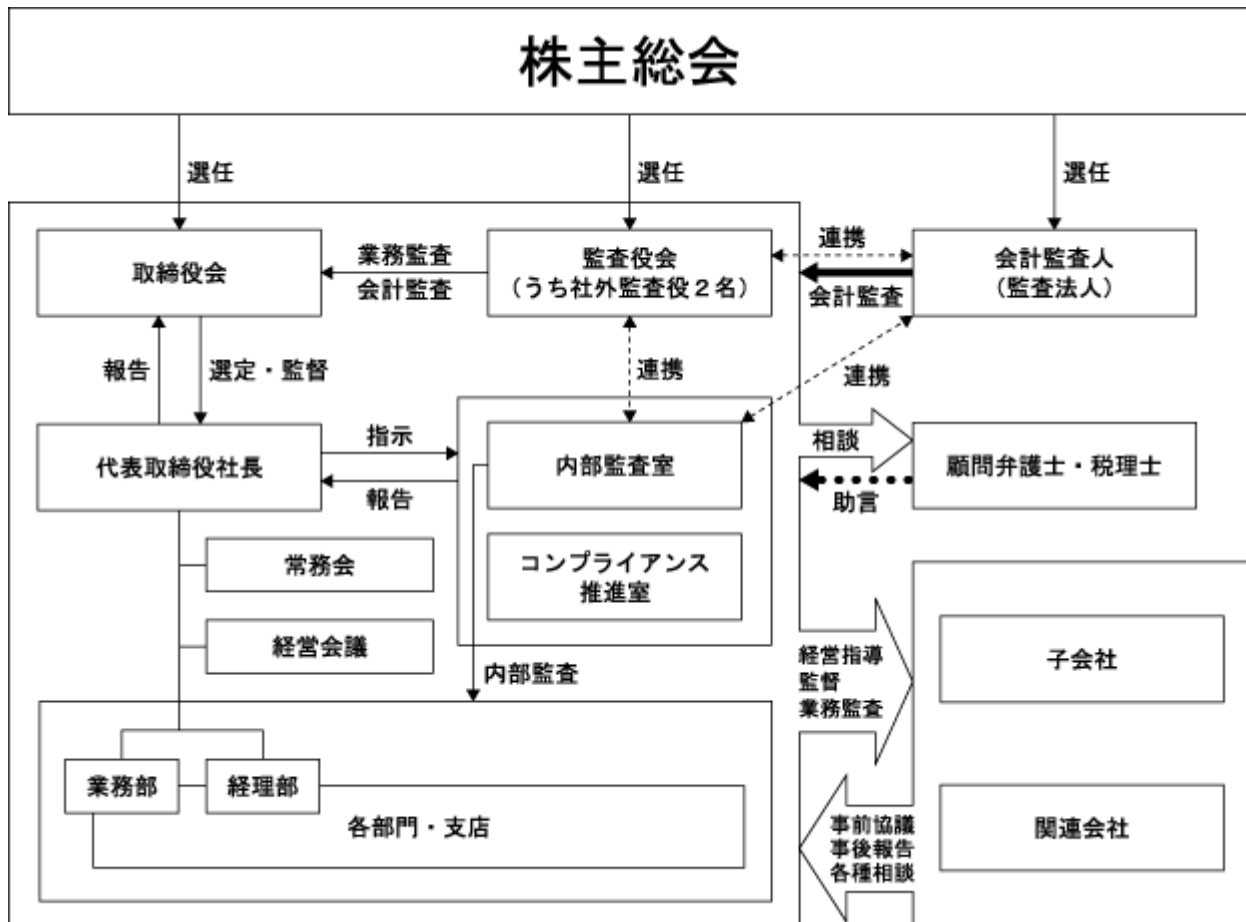
八．適時開示体制

適時開示担当役員(業務部・経理部担当常務取締役)を選任、また、事務局(業務部)を設置しており、会社情報を適切に開示する体制を整備しております。

二．コーポレート・ガバナンスの充実に向けた取組みの最近1年間における実施状況

取締役会は13回、常務会は11回、経営会議は12回、情報交換会は2回開催しております。さらに、IR活動の一環として当社ホームページにIR情報欄を設けております。

ホ．コーポレート・ガバナンス体制の模式図は次のとおりであります。



内部監査及び監査役監査

当社の内部監査は内部監査規定に基づき、内部監査の経験者1名を内部監査室長として選任し、独立した立場からグループ会社の内部統制の整備・運用状況の評価を行っております。また、監査役監査は財務及び会計に関する知見を有した経理部長経験者1名を常勤監査役、企業経営者として豊富な経験、幅広い知見を有した監査役と上場企業の内部監査部門等の豊富な経験を有した2名の社外監査役から構成され、取締役の職務執行の適正性を主とした監査を行っております。

監査役と会計監査人との間では監査契約締結時、監査計画策定時、四半期レビュー時及び期末監査時に定期的会合をもつとともに、随時監査上の必要な事項について情報提供と意見交換を行っております。また、監査役からは日常の業務監査で知りえた情報を会計監査人に伝え、会計監査人からは会計監査で得た情報の提供を受けて、それぞれの監査品質と監査効率の向上に役立てております。

監査役は内部監査室より監査計画や監査結果について定期的に報告を受け、重要な問題があるときは都度報告を受けております。監査結果については、その適切性を確認の上、監査役監査に実効的に活用しております。また、監査計画や監査結果について、監査役より内部監査室に伝えるなど内部監査部門との緊密な連携を保っております。

内部監査、監査役監査及び会計監査人の三者は相互の連携を図るとともに、内部統制部門とも緊密な連携を保ち、効率的で透明性の高い経営管理体制の確立に寄与しております。

社外取締役及び社外監査役

当社の社外監査役は2名であります。また、社外取締役は選任しておりません。

イ．社外監査役と提出会社との人的関係、資本的关系又は取引関係その他の利害関係

社外監査役につきましては、資本的关系又は取引関係等その他の利害関係のない監査役1名と、当社の筆頭株主（JXホールディングス株式会社 持分比率30.54% 平成24年3月31日現在）の子会社であるJX日鉱日石エネルギー株式会社より1名が就任しております。なお、社外監査役と当社との間には特別の利害関係はありません。

ロ．社外監査役が提出会社の企業統治において果たす機能及び役割

社外監査役は、監査体制の独立性及び中立性の環境整備に努めるとともに、その独立性、中立性の立場から代表取締役及び取締役会に対し、客観的な意見表明を行っております。

ハ．社外監査役の選任状況に関する提出会社の考え方

取締役会は社内取締役7名と監査役3名で構成されており、社内取締役7名の職務執行の監督・監視は常勤監査役を含めた監査役3名で充分対応できる体制となっております。

なお、社外取締役及び社外監査役を選任するための当社からの独立性に関する基準及び方針は定めておりませんが、選任にあたっては証券取引所の独立役員の独立性に関する判断基準等を参考にしております。

ニ．社外監査役による監督又は監査と内部監査、監査役監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

社外監査役は会社の業務及び財産の状況調査その他監査職務の執行にあたり、内部監査部門その他内部統制システムにおけるモニタリング機能を所管する部所と緊密な連携を保ち、効率的な監査を実施しております。また、社外監査役は会計監査を担っている監査人と定期的に会合を持つなど、緊密な連携を保ち積極的に意見及び情報の交換を行い、効率的な監査を実施しております。

ホ．社外取締役に代わる社内体制及び当該社内体制を採用する理由

前述のとおり、社外監査役が社外監査役としての機能・役割を十分に果たしており、社外取締役を選任しなくとも、当該社内体制で取締役の職務執行を十分に監視・監督できる体制となっております。

役員の報酬等

イ．提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)				対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く。)	37,841	30,515			7,326	7
監査役 (社外監査役を除く。)	6,264	5,664			600	1
社外役員	3,100	3,000			100	1

(注) 「退職慰労金」欄は、当事業年度における役員退職慰労引当金の増加額であります。

ロ．提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

ハ．役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針

当社は役員の報酬等の額の決定に関する方針を定めており、報酬額は役職別報酬基準額の範囲内としております。また、その決定方法は各々の職務内容能力、年齢、他社役職の兼務状況等を勘案し、取締役会の承認をもって行っております。

株式の保有状況

イ．保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

銘柄数 28銘柄
貸借対照表計上額の合計額 525,487千円

ロ．保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

(前事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
J F E コンテナ(株)	636,000	160,272	取引関係の維持
(株)三菱U F J フィナンシャル・グループ	170,810	65,591	同上
日本瓦斯(株)	40,000	45,360	同上
(株)三菱ケミカルホールディングス	72,264	37,794	同上
三菱U F J リース(株)	7,050	23,512	同上
(株)横浜銀行	32,100	12,680	同上
東部ネットワーク(株)	20,000	11,480	同上
星光P M C (株)	40,000	10,720	同上
D I C (株)	43,390	8,374	同上
関東電化工業(株)	10,000	6,180	同上
三菱ガス化学(株)	10,000	5,970	同上
(株)丸運	16,500	3,564	同上
富士興産(株)	30,000	2,790	同上
みずほインベスターズ証券(株)	30,000	2,310	同上
新日本理化(株)	5,000	475	同上
日本カーリット(株)	1,000	453	同上

(当事業年度)
特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
J F E コンテナ(株)	636,000	238,500	取引関係の維持
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	170,810	70,374	同上
日本瓦斯(株)	40,000	52,360	同上
(株)三菱ケミカルホールディングス	75,455	33,351	同上
三菱UFJリース(株)	7,050	25,662	同上
(株)横浜銀行	32,100	13,289	同上
星光PMC(株)	40,000	13,280	同上
東部ネットワーク(株)	20,000	11,940	同上
DIC(株)	43,390	7,246	同上
三菱ガス化学(株)	10,000	5,530	同上
(株)丸運	16,500	3,531	同上
関東電化工業(株)	10,000	3,060	同上
新日本理化(株)	5,000	2,950	同上
みずほインベスターズ証券(株)	16,800	2,268	同上
富士興産(株)	30,000	2,220	同上
日本カーリット(株)	1,000	417	同上

八．保有目的が純投資目的である投資株式

該当事項はありません。

会計監査の状況

有限責任監査法人トーマツとは会社法監査及び金融商品取引法監査について監査契約を締結し、それに基づき報酬を支払っております。なお、同監査法人及び当社監査に従事する同監査法人の業務執行社員と当社の間には特別の利害関係はありません。

当該監査は業務執行社員2名及び補助者10名の合計12名で行われております。なお、業務を執行した公認会計士の氏名については以下のとおりです。

・業務を執行した公認会計士の氏名

指定有限責任社員 業務執行社員：茂木浩之、中原健

定款の記載に関する事項

イ．株主総会の特別決議

当社は、会社法第309条第2項各号に掲げる株主総会の決議について、当該株主総会において議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、出席した当該株主の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行う旨、定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

ロ．取締役の定数

当社の取締役は15名以内とする旨を定款で定めております。

ハ．取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議は、総株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨を定款で定めております。また、取締役の選任決議は累積投票によらない旨も定款で定めております。

二．株主総会決議事項を取締役会で決議することができる事項

自己の株式の取得

当社は、自己の株式の取得について、機動的な資本政策の遂行を可能とするため、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって自己の株式を取得することができる旨を定款で定めております。

中間配当

当社は、株主への機動的な利益還元を行うため、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって中間配当を行うことができる旨を定款で定めております。

反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方

当社グループは社会的秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力、団体に対しては毅然とした態度で対処し、あらゆる関係を持たない方針であります。

この方針に基づき、「企業行動規範」において反社会的勢力との関係遮断を明記しております。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に 基づく報酬(千円)	非監査業務に 基づく報酬(千円)	監査証明業務に 基づく報酬(千円)	非監査業務に 基づく報酬(千円)
提出会社	20,000		20,000	
連結子会社				
計	20,000		20,000	

【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

前連結会計年度

該当事項はありません。

当連結会計年度

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

当社の事業規模の観点から監査日数等を勘案し、監査法人に対する監査報酬額を決定しております。

第5 【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。

また、連結財務諸表に掲記される科目、その他の事項の金額については、千円未満を四捨五入して記載しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)に基づいて作成しております。

また、財務諸表に掲記される科目、その他の事項の金額については、千円未満を四捨五入して記載しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)の財務諸表について、有限責任監査法人トーマツの監査を受けております。

3 その他

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には会計基準の内容又はその変更等についての意見発信及び普及・コミュニケーションを行う組織・団体への加入、会計基準設定主体等の行う研修への参加、その他会計基準等の内容を適切に把握し、又は会計基準等の変更等についての的確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入しております。

1【連結財務諸表等】

(1)【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	868,538	1,222,750
受取手形及び売掛金	1,511,282	⁴ 1,562,670
リース投資資産	10,302	17,689
商品	12,626	16,642
原材料及び貯蔵品	34,566	13,101
半成工事	39,781	32,152
繰延税金資産	51,791	55,556
その他	118,535	99,907
貸倒引当金	8,648	5,347
流動資産合計	2,638,773	3,015,120
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	² 2,965,933	² 2,969,287
減価償却累計額	2,167,548	2,220,676
建物及び構築物（純額）	798,385	748,611
機械及び装置	342,956	359,768
減価償却累計額	262,005	245,552
機械及び装置（純額）	80,951	114,216
車両運搬具	2,168,927	2,169,187
減価償却累計額	1,982,587	1,969,974
車両運搬具（純額）	186,340	199,213
土地	² 1,251,288	² 1,254,441
リース資産	295,922	414,077
減価償却累計額	75,069	135,432
リース資産（純額）	220,853	278,645
その他	193,174	188,284
減価償却累計額	163,669	159,431
その他（純額）	29,505	28,853
有形固定資産合計	2,567,322	2,623,979
無形固定資産	9,685	8,871
投資その他の資産		
投資有価証券	^{1, 2} 778,262	^{1, 2} 851,031
リース投資資産	34,943	58,374
その他	172,911	169,065
貸倒引当金	4,973	8,712
投資その他の資産合計	981,143	1,069,758
固定資産合計	3,558,150	3,702,608
資産合計	6,196,923	6,717,728

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	902,529	4 1,074,019
短期借入金	2 900,645	2 866,000
リース債務	63,970	93,438
未払費用	164,946	198,847
未払法人税等	18,040	76,138
賞与引当金	96,596	97,239
資産除去債務	5,251	-
その他	169,928	234,733
流動負債合計	2,321,905	2,640,414
固定負債		
長期借入金	2 374,000	2 355,000
リース債務	216,967	281,938
繰延税金負債	1,245	8,533
退職給付引当金	553,860	601,459
役員退職慰労引当金	50,534	48,317
資産除去債務	64,501	65,007
その他	36,287	34,386
固定負債合計	1,297,394	1,394,640
負債合計	3,619,299	4,035,054
純資産の部		
株主資本		
資本金	160,000	160,000
資本剰余金	4,995	4,995
利益剰余金	2,310,974	2,347,693
自己株式	2,669	2,698
株主資本合計	2,473,300	2,509,990
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	94,344	160,946
その他の包括利益累計額合計	94,344	160,946
少数株主持分	9,980	11,738
純資産合計	2,577,624	2,682,674
負債純資産合計	6,196,923	6,717,728

【連結損益及び包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
売上高	8,557,116	9,338,347
売上原価	7,973,642	8,743,477
売上総利益	583,474	594,870
販売費及び一般管理費		
販売費	21,717	22,151
一般管理費	1 508,624	1 447,500
販売費及び一般管理費合計	530,341	469,651
営業利益	53,133	125,219
営業外収益		
受取利息	540	435
受取配当金	18,522	24,013
営業車両売却益	2,039	5,368
持分法による投資利益	35,374	8,030
補助金収入	8,815	22,005
軽油引取税交付金	8,281	8,771
その他	6,639	8,841
営業外収益合計	80,210	77,463
営業外費用		
支払利息	25,291	21,952
営業車両売却損	-	606
営業車両除却損	-	55
貸倒引当金繰入額	-	5,985
その他	1,978	1,002
営業外費用合計	27,269	29,600
経常利益	106,074	173,082
特別利益		
固定資産売却益	2 72	2 145
投資有価証券売却益	15,220	-
貸倒引当金戻入額	24,960	-
特別利益合計	40,252	145
特別損失		
固定資産売却損	3 350	3 412
固定資産除却損	4 6,177	4 2,184
投資有価証券評価損	-	41,197
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	58,083	-
過年度源泉所得税納付額	22,739	-
その他	6,018	7,300
特別損失合計	93,367	51,093
税金等調整前当期純利益	52,959	122,134
法人税、住民税及び事業税	45,089	94,791

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
法人税等調整額	11,112	20,824
法人税等合計	33,977	73,967
少数株主損益調整前当期純利益	18,982	48,167
少数株主利益	202	1,858
当期純利益	18,780	46,309
少数株主利益	202	1,858
少数株主損益調整前当期純利益	18,982	48,167
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	82,257	157,882
持分法適用会社に対する持分相当額	12,087	3,064
その他の包括利益合計	94,344	160,946
包括利益	113,326	209,113
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	113,056	207,244
少数株主に係る包括利益	270	1,869

【連結株主資本等変動計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	160,000	160,000
当期末残高	160,000	160,000
資本剰余金		
当期首残高	4,995	4,995
当期末残高	4,995	4,995
利益剰余金		
当期首残高	2,301,784	2,310,974
当期変動額		
剰余金の配当	9,590	9,590
当期純利益	18,780	46,309
当期変動額合計	9,190	36,719
当期末残高	2,310,974	2,347,693
自己株式		
当期首残高	2,609	2,669
当期変動額		
自己株式の取得	60	29
当期変動額合計	60	29
当期末残高	2,669	2,698
株主資本合計		
当期首残高	2,464,170	2,473,300
当期変動額		
剰余金の配当	9,590	9,590
当期純利益	18,780	46,309
自己株式の取得	60	29
当期変動額合計	9,130	36,690
当期末残高	2,473,300	2,509,990
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	59,235	94,344
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	35,109	66,602
当期変動額合計	35,109	66,602
当期末残高	94,344	160,946
その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	59,235	94,344
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	35,109	66,602
当期変動額合計	35,109	66,602
当期末残高	94,344	160,946

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
少数株主持分		
当期首残高	9,878	9,980
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	102	1,758
当期変動額合計	102	1,758
当期末残高	9,980	11,738
純資産合計		
当期首残高	2,533,283	2,577,624
当期変動額		
剰余金の配当	9,590	9,590
当期純利益	18,780	46,309
自己株式の取得	60	29
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	35,211	68,360
当期変動額合計	44,341	105,050
当期末残高	2,577,624	2,682,674

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	52,959	122,134
減価償却費	187,881	226,587
持分法による投資損益（は益）	35,374	8,030
賞与引当金の増減額（は減少）	1,231	643
退職給付引当金の増減額（は減少）	38,876	47,599
役員退職慰労引当金の増減額（は減少）	3,161	2,217
貸倒引当金の増減額（は減少）	19,755	438
受取利息及び受取配当金	19,062	24,448
支払利息	25,291	21,952
固定資産売却損益（は益）	1,761	4,495
固定資産除却損	6,177	2,239
投資有価証券売却損益（は益）	15,220	-
投資有価証券評価損益（は益）	-	41,197
売上債権の増減額（は増加）	76,607	51,388
たな卸資産の増減額（は増加）	24,353	25,078
仕入債務の増減額（は減少）	18,180	171,490
未払費用の増減額（は減少）	9,699	33,901
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	58,083	-
その他	54,184	96,261
小計	254,806	698,941
利息及び配当金の受取額	21,362	26,748
利息の支払額	24,741	22,028
法人税等の支払額	66,966	37,764
営業活動によるキャッシュ・フロー	184,461	665,897
投資活動によるキャッシュ・フロー		
投資有価証券の取得による支出	18,585	10,061
投資有価証券の売却による収入	15,720	-
有形固定資産の取得による支出	116,225	163,517
有形固定資産の売却による収入	9,324	11,025
その他	33,403	8,586
投資活動によるキャッシュ・フロー	76,363	171,139
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	-	30,000
長期借入金の返済による支出	173,440	83,645
自己株式の取得による支出	60	29
リース債務の返済による支出	55,739	77,182
配当金の支払額	9,590	9,590
少数株主への配当金の支払額	100	100
財務活動によるキャッシュ・フロー	238,929	140,546
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	130,831	354,212
現金及び現金同等物の期首残高	919,369	788,538
現金及び現金同等物の期末残高	788,538	1,142,750

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項】

1 連結の範囲に関する事項

子会社はすべて連結しております。連結子会社は京極石油株式会社、日本タンクサービス株式会社及び株式会社TSトランスポートの3社であります。

また、前連結会計年度末現在、連結子会社であった京浜京極運送株式会社は、平成23年6月1日に当社が吸収合併を行いました。

2 持分法の適用に関する事項

関連会社すべてについて持分法を適用しております。

関連会社は株式会社弥生京極社の1社であります。

3 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日は連結決算日と同一であります。

4 会計処理基準に関する事項

(イ)重要な資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

(2) たな卸資産

通常の販売目的で保有するたな卸資産

主として移動平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

(ロ)重要な減価償却資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法

ただし、当社の倉庫用建物のうち、京浜支店の浜川崎倉庫については定額法によっております。また、平成10年4月1日以降に取得した建物(附属設備を除く)については、定額法によっております。

なお、主な耐用年数は、建物及び構築物が2～50年、機械及び装置2～14年、車両運搬具2～7年であります。

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

(八)重要な引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付支給に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

なお、会計基準変更時差異(740,157千円)については、15年による按分額を費用処理しております。

数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務年数による定額法により、それぞれ翌連結会計年度から費用処理しております。

(4) 役員退職慰労引当金

当社及び連結子会社(3社)において、役員の将来の退職慰労金支給に備えて内規に基づく連結会計年度末要支給額を計上しております。

(二)重要なヘッジ会計の方法

(1) ヘッジ会計の方法

金利スワップについては特例処理を採用しております。

(2) ヘッジ手段とヘッジ対象

長期借入金について金利スワップ取引を採用しております。

(3) ヘッジ方針

金利スワップ取引について長期借入金に対する金利変動リスクの軽減及び実質的な調達コストを軽減する目的で採用しております。

(4) ヘッジ有効性評価の方法

特例処理を採用している金利スワップにつき有効性の評価を省略しております。

(ホ)連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(ヘ)その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

【会計方針の変更】

該当事項はありません。

【表示方法の変更】

該当事項はありません。

【追加情報】

当連結会計年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(連結貸借対照表関係)

1 関連会社に対するものは次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
投資有価証券(株式)	97,467千円	94,174千円

2 担保資産及び担保付債務

担保に供されている資産及び担保付債務は以下のとおりであります。

担保に供されている資産

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
土地	1,015,440千円	1,015,440千円
建物及び構築物	514,999千円	477,539千円
投資有価証券	120,916千円	125,255千円
計	1,651,355千円	1,618,234千円

担保付債務

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
長期借入金	300,000千円	323,000千円
短期借入金	655,960千円	624,000千円
仕入債務	150,000千円	150,000千円

3 偶発債務

連結会社以外の会社が行う借入等に対して以下のとおり債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
日本容器(株)	15,000千円	15,000千円
(株)ベイトランスポート	2,110千円	703千円
計	17,110千円	15,703千円

(注) 前期末に債務保証を行っていたサンドラム株式会社は、平成23年4月1日付で日本容器株式会社と合併し、現在は日本容器株式会社に商号変更しております。

4 期末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、当連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形が、期末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
受取手形		72,837千円
支払手形		33,424千円

(連結損益及び包括利益計算書関係)

1 主要な費目と金額

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
役員報酬	77,493千円	61,986千円
従業員給料	163,988千円	155,611千円

2 固定資産売却益の内訳

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
工具、器具及び備品	72千円	145千円

3 固定資産売却損の内訳

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
機械及び装置		371千円
車両運搬具		41千円
工具、器具及び備品	350千円	
計	350千円	412千円

4 固定資産除却損の内訳

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
建物及び構築物	4,806千円	320千円
機械及び装置	750千円	1,435千円
車両運搬具	49千円	
その他	572千円	429千円
計	6,177千円	2,184千円

5 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
その他有価証券評価差額金	
当期発生額	203,705千円
組替調整額	41,197千円
税効果調整前	244,902千円
税効果額	87,020千円
その他有価証券評価差額金	157,882千円
持分法適用会社に対する持分相当額	
当期発生額	3,064千円
その他の包括利益合計	160,946千円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	3,200,000			3,200,000

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	8,052	155		8,207

(注) 普通株式の株式数の増加155株は、単元未満株式の買取りによる増加であります。

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成22年 6月29日 定時株主総会	普通株式	9,590	3	平成22年 3月31日	平成22年 6月30日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成23年 6月29日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	9,589	3	平成23年 3月31日	平成23年 6月30日

当連結会計年度(自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	3,200,000			3,200,000

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	8,207	74		8,281

(注) 普通株式の株式数の増加74株は、単元未満株式の買取りによる増加であります。

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成23年 6月29日 定時株主総会	普通株式	9,590	3	平成23年 3月31日	平成23年 6月30日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成24年 6月28日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	9,589	3	平成24年 3月31日	平成24年 6月29日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に記載されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
現金及び預金勘定	868,538千円	1,222,750千円
預入期間が3ヵ月を超える定期預金	80,000千円	80,000千円
現金及び現金同等物	788,538千円	1,142,750千円

2 重要な非資金取引の内容

ファイナンス・リース取引に係る資産及び債務の額は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
ファイナンス・リース取引に係る資産 及び債務の額	131,283千円	118,155千円

(リース取引関係)

<借主側>

1 ファイナンス・リース取引

(1) リース資産の内容

有形固定資産

主として、貨物自動車運送事業における車両及び管理部門におけるホストコンピュータであります。

(2) リース資産の減価償却方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

2 オペレーティング・リース取引

未経過リース料

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
1年内	26,533千円	17,244千円
1年超	27,353千円	9,136千円
合計	53,886千円	26,380千円

リース取引に関する会計基準適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引

(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

前連結会計年度(平成23年3月31日)

	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
車両運搬具	1,049,791千円	705,904千円	343,887千円
その他	14,004千円	12,608千円	1,396千円
合計	1,063,795千円	718,512千円	345,283千円

当連結会計年度(平成24年3月31日)

	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
車両運搬具	914,046千円	707,590千円	206,456千円
その他	4,239千円	3,634千円	605千円
合計	918,285千円	711,224千円	207,061千円

(2) 未経過リース料期末残高相当額

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
1年内	153,340千円	54,250千円
1年超	60,586千円	6,622千円
合計	213,926千円	60,872千円

(3) 支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
支払リース料	167,465千円	131,228千円
減価償却費相当額	156,123千円	116,866千円
支払利息相当額	7,623千円	4,342千円

(4) 減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零(残価保証の取り決めがある場合は、残価保証額)とする定額法によっております。

(5) 利息相当額の算定方法

リース料総額とリース物件の取得価額相当額の差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっております。

< 貸主側 >

リース取引に関する会計基準適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引

(1) リース物件の取得価額、減価償却累計額及び期末残高

前連結会計年度(平成23年 3月31日)

	取得価額	減価償却累計額	期末残高
工具、器具及び備品	23,761千円	17,975千円	5,786千円

当連結会計年度(平成24年 3月31日)

	取得価額	減価償却累計額	期末残高
工具、器具及び備品	7,242千円	6,879千円	363千円

(2) 未経過リース料期末残高相当額

	前連結会計年度 (平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (平成24年 3月31日)
1年内	6,498千円	808千円
1年超	808千円	
合計	7,306千円	808千円

(注) 未経過リース料期末残高相当額の算定は、未経過リース料残高及び見積残存価額の残高の合計額が営業債権の期末残高等に対して一定割合を下回っているため、受取利子込み法によっております。

(3) 受取リース料及び減価償却費

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
受取リース料	7,006千円	6,498千円
減価償却費	3,286千円	1,155千円

[次へ](#)

(金融商品関係)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、主に貨物自動車運送事業及び倉庫事業を行うための設備投資計画に照らしての必要な資金と短期的な運転資金を銀行借入により調達しております。また、一時的な余資による金融資産の運用は行っておりません。デリバティブは、後述するリスクを回避するために利用し、投機的な取引は行いません。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。投資有価証券は、主に取引先企業等との業務又は資本提携等に関連する株式であり、市場価額の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、1年以内の支払期日であります。借入金及びファイナンス・リース取引に係るリース債務は、主に設備投資に必要な資金の調達を目的としたものであり、償還日は決算日後、最長で6年後であります。借入金のうち一部は、変動金利であるため金利の変動リスクに晒されておりますが、デリバティブ取引(金利スワップ取引)を利用してヘッジしております。

デリバティブ取引は、借入金に係る支払金利の変動リスクに対するヘッジ取引を目的とした金利スワップ取引であります。なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジの方針、ヘッジ有効性の評価方法等については、前述の「会計処理基準に関する事項」の「重要なヘッジ会計の方法」を参照ください。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

当社は、売掛金回収規定に従い、営業債権について各事業部門における回収責任者が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。連結子会社についても、当社の売掛金回収規定に準じて、同様の管理を行っております。

当期の連結決算日現在における最大信用リスク額は、信用リスクに晒される金融資産の貸借対照表価額により表されております。

市場リスク(為替や金利等の変動リスク)の管理

当社は、投資有価証券について、定期的に時価や発行体(取引先企業)の財務状況等を把握しております。

デリバティブ取引については、借入金に係る支払金利の変動リスクに対するヘッジ取引を目的とした金利スワップ取引に限定しており、社内規定に基づき経理部が管理を行っております。

資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

当社は、各部所からの報告に基づき経理部が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性維持のため、毎月資金予算会を開催し、流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれておりません((注2)参照)。

前連結会計年度(平成23年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
資産			
(1) 現金及び預金	868,538	868,538	
(2) 受取手形及び売掛金	1,511,282	1,511,282	
(3) 投資有価証券	641,285	641,285	
資産計	3,021,105	3,021,105	
負債			
(1) 支払手形及び買掛金	902,529	902,529	
(2) 短期借入金	900,645	900,645	
(3) 未払法人税等	18,040	18,040	
(4) 長期借入金	374,000	368,456	5,544
負債計	2,195,214	2,189,670	5,544

当連結会計年度(平成24年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
資産			
(1) 現金及び預金	1,222,750	1,222,750	
(2) 受取手形及び売掛金	1,562,670	1,562,670	
(3) 投資有価証券	717,348	717,348	
資産計	3,502,768	3,502,768	
負債			
(1) 支払手形及び買掛金	1,074,019	1,074,019	
(2) 短期借入金	866,000	866,000	
(3) 未払法人税等	76,138	76,138	
(4) 長期借入金	355,000	350,427	4,573
負債計	2,371,157	2,366,584	4,573

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資産

(1) 現金及び預金、並びに(2) 受取手形及び売掛金

これらは全て短期であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

株式は取引所の価格によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記を参照ください。

負債

(1) 支払手形及び買掛金、(2) 短期借入金、並びに(3) 未払法人税等

これらは全て短期であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4) 長期借入金

長期借入金の時価については、元利金の合計額を新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額

(単位：千円)

区分	平成23年3月31日	平成24年3月31日
非上場株式	136,977	133,683

非上場株式については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「投資有価証券」には含めておりません。

(注3) 金銭債権及び満期がある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(平成23年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超5年以内 (千円)	5年超10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	868,538			
受取手形及び売掛金	1,511,282			
合計	2,379,820			

当連結会計年度(平成24年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超5年以内 (千円)	5年超10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	1,222,750			
受取手形及び売掛金	1,562,670			
合計	2,785,420			

(注4) 社債、長期借入金、リース債務及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額

連結附属明細表「社債明細表」及び「借入金等明細表」参照。

(有価証券関係)

1 その他有価証券

前連結会計年度(平成23年3月31日)

	種類	連結貸借対照表 計上額(千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1) 株式	553,814	363,511	190,303
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 株式	87,471	140,072	52,601
合計		641,285	503,583	137,702

当連結会計年度(平成24年3月31日)

	種類	連結貸借対照表 計上額(千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1) 株式	590,829	336,919	253,910
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 株式	126,519	135,527	9,008
合計		717,348	472,446	244,902

2 連結会計年度中に売却したその他有価証券

前連結会計年度(自平成22年4月1日至平成23年3月31日)

種類	売却額 (千円)	売却益の合計額 (千円)	売却損の合計額 (千円)
株式	15,720	15,220	

当連結会計年度(自平成23年4月1日至平成24年3月31日)

当連結会計年度中に売却したその他有価証券はありません。

3 連結会計年度中に減損処理をしたその他有価証券

前連結会計年度(自平成22年4月1日至平成23年3月31日)

当連結会計年度中に売却したその他有価証券はありません。

当連結会計年度(自平成23年4月1日至平成24年3月31日)

当連結会計年度において減損処理を行い、投資有価証券評価損41,197千円を計上しております。

なお、減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30%~50%程度下落した場合には、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。

(デリバティブ取引関係)

1 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

金利関連

前連結会計年度(平成23年3月31日)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (千円)	契約額等のうち1 年超 (千円)	時価 (千円)
金利スワップ の特例処理	金利スワップ取引 支払固定・ 受取変動	長期借入金	450,000	74,000	(注)

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

当連結会計年度(平成24年3月31日)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (千円)	契約額等のうち1 年超 (千円)	時価 (千円)
金利スワップ の特例処理	金利スワップ取引 支払固定・ 受取変動	長期借入金	200,000	32,000	(注)

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

[次へ](#)

(退職給付関係)

1 採用している退職給付制度の概要

当社及び連結子会社は、確定給付型の制度として退職一時金制度を設けております。なお、従業員の退職等の際に割増退職金を支払う場合があります。

また、当社及び連結子会社中2社は中小企業退職金共済制度に加入しております。さらに、当社及び連結子会社中1社は総合設立型の「東京トラック事業厚生年金基金」に加入しておりますが、当該厚生年金基金制度は退職給付会計実務指針33項の例外処理を行う制度であります。

なお、要拠出額を退職給付費用として処理している複数事業主制度に関する事項は次のとおりであります。

(1) 制度全体の積立状況に関する事項

	平成22年3月31日現在	平成23年3月31日現在
年金資産の額	73,876,000千円	70,911,751千円
年金財政計算上の給付債務の額	80,697,000千円	77,209,063千円
差引額	6,821,000千円	6,297,312千円

(2) 制度全体に占める当社グループの給与総額割合

平成22年3月31日現在	1.9%
平成23年3月31日現在	1.9%

(3) 補足説明

上記(1)の差引額の主な要因は、年金財政計算上の過去勤務債務残高(前連結会計年度6,555,000千円、当連結会計年度5,137,736千円)、資産評価調整加算額(前連結会計年度7,528,000千円、当連結会計年度3,416,471千円)及び剰余金額(前連結会計年度7,262,000千円、当連結会計年度2,256,895千円)であります。

また、本制度における過去勤務債務の償却方法は期間10年の元利均等償却であります。

2 退職給付債務に関する事項

	前連結会計年度 (平成23年3月31日) (千円)	当連結会計年度 (平成24年3月31日) (千円)
イ 退職給付債務	839,418 (注)1	805,207 (注)1
ロ 年金資産		
ハ 未積立退職給付債務(イ+ロ)	839,418	805,207
ニ 会計基準変更時差異の未処理額	180,834	135,601
ホ 未認識数理計算上の差異	104,718	68,145
ヘ 未認識過去勤務債務(債務の減額)	6	2
ト 連結貸借対照表計上額純額(ハ+ニ+ホ+ヘ)	553,860	601,459
チ 前払年金費用		
リ 退職給付引当金(ト-チ)	553,860	601,459

前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
(注) 1 一部の子会社は退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。	(注) 1 一部の子会社は退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。

3 退職給付費用に関する事項

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日) (千円)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日) (千円)
イ 勤務費用	49,768 (注)1	46,477 (注)1
ロ 利息費用	12,515	12,402
ハ 期待運用収益		
ニ 会計基準変更時差異の費用処理額	45,234	45,234
ホ 数理計算上の差異の費用処理額	20,867	22,273
ヘ 過去勤務債務の費用処理額	4	4
ト 小計(イ+ロ+ハ+ニ+ホ+ヘ)	128,388	126,390
チ 総合設立型厚生年金基金掛金等	82,397	81,340
リ 退職給付費用(ト+チ)	210,785	207,730

前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
(注) 1 簡便法を採用している連結子会社の退職給付費用は「イ 勤務費用」に計上しております。	(注) 1 簡便法を採用している連結子会社の退職給付費用は「イ 勤務費用」に計上しております。

4 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
イ 退職給付見込額の期間配分方法	期間定額基準 (資格等級部分はポイント 基準)	同左
ロ 割引率	1.5%	1.5%
ハ 期待運用収益率		
ニ 過去勤務債務の額の処理年数	11年 (差異発生 of 翌年度より平均 残存勤務年数にて償却)	11年 (同左)
ホ 数理計算上の差異の処理年数	13年 (それぞれ差異発生 of 翌年 度より平均残存勤務年数に て償却)	13年 (同左)
ヘ 会計基準変更時差異の処理年数	15年	15年

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
繰延税金資産		
未払事業税	2,190千円	6,589千円
賞与引当金	37,729千円	35,600千円
ゴルフ会員権評価損	910千円	633千円
退職給付引当金	221,305千円	215,187千円
役員退職慰労引当金	19,958千円	18,095千円
資産除去債務	27,463千円	22,844千円
その他有価証券評価差額金		727千円
投資有価証券評価損		14,930千円
その他	25,910千円	20,499千円
繰延税金資産小計	335,465千円	335,104千円
評価性引当額	39,985千円	47,620千円
繰延税金資産合計	295,480千円	287,484千円
繰延税金負債		
資産除去債務に対応する除去費用	4,175千円	3,385千円
その他有価証券評価差額金	55,444千円	87,020千円
固定資産圧縮積立金	170,525千円	142,494千円
繰延税金負債合計	230,144千円	232,899千円
繰延税金資産の純額	65,336千円	54,585千円

(注) 前連結会計年度及び当連結会計年度における繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
流動資産 繰延税金資産	51,791千円	55,556千円
固定資産 繰延税金資産	14,790千円	7,562千円
固定負債 繰延税金負債	1,245千円	8,533千円

2 連結財務諸表提出会社の法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異のあるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
法定実効税率	40.2%	40.2%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	10.0%	4.1%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	5.3%	3.8%
住民税均等割額	8.3%	3.5%
評価性引当額の増減	37.9%	11.0%
持分法投資損益	26.8%	2.6%
税率変更に伴う差額		6.8%
その他	0.1%	1.4%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	64.2%	60.6%

3 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律及び東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法が平成23年12月2日に公布されたことに伴い、当連結会計年度の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算において使用した法定実効税率を変更しております。

その結果、繰延税金負債の金額(繰延税金資産の金額を控除した金額)が4,034千円減少し、当連結会計年度に計上された法人税等調整額が8,315千円、その他有価証券評価差額金が12,349千円、それぞれ増加しております。

(企業結合等関係)

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

京浜京極運送株式会社の吸収合併

当社は平成23年2月24日の取締役会において、100%出資子会社である京浜京極運送株式会社を吸収合併する旨の決議を行い、平成23年6月1日付けにて合併いたしました。

1 取引の概要

(1) 結合当事企業の名称及び当該事業の内容

事業の名称：京浜京極運送株式会社

事業の内容：一般貨物自動車運送事業

(2) 企業結合日

平成23年6月1日

(3) 企業結合の法的形式

当社を存続会社、京浜京極運送株式会社を消滅会社とする吸収合併方式であります。また、当社100%出資子会社との合併のため、新株式及び合併交付金の支払いはありません。

なお、消滅会社である京浜京極運送株式会社は新株予約権及び新株予約権付社債を発行しておりません。

(4) 合併後企業の名称

京極運輸商事株式会社

(5) その他取引の概要に関する事項

吸収合併の目的

京浜京極運送株式会社は当社の100%出資子会社であり、主に当社の港湾運送部門の配送業務を受託し、トレーラによる海上コンテナ輸送とトラックによる配送業務を中心に行ってまいりました。

このたび、管理部門を統合し、経営の効率化を図るため、吸収合併いたしました。

2 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成20年12月26日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 平成20年12月26日)に基づき、共通支配下の取引として会計処理を行いました。

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

(1) 当該資産除去債務の概要

車庫施設用土地の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務及び事務所・倉庫用建物における石綿障害予防規則に基づくアスベスト除去義務であります。

(2) 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を取得から3～52年と見積り、割引率は0.23～2.29%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

(3) 当該資産除去債務の総額の増減

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
期首残高(注)	70,003千円	69,752千円
有形固定資産の取得に伴う増加額		
時の経過による調整額	505千円	506千円
資産除去債務の履行による減少	756千円	5,251千円
期末残高	69,752千円	65,007千円

(注) 前連結会計年度の「期首残高」は「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用したことによる残高です。

[前へ](#)

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、社内業績管理単位である業種別の営業管理部門を置き、各営業管理部門は取り扱う製品及び労務提供についての包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。よって、当社は営業管理部門を基礎とした業種別セグメントから構成されており、「石油・ドラム缶等販売事業」、「貨物自動車運送事業」、「港湾運送及び通関事業」及び「倉庫事業」並びに「タンク洗滌・修理事業」の5つを報告セグメントとしております。

「石油・ドラム缶等販売事業」は、石油製品、各種ドラム缶及びその他商品等を販売し、これら販売における配送業務を行っております。「貨物自動車運送事業」は、石油類・化学製品類の液体輸送他の貨物運送事業及び自動車運送取扱事業を行い、また、これら事業の関連施設における構内作業を行っております。「港湾運送及び通関事業」は、港湾貨物の搬出入、荷捌、保管及び輸出入貨物の通関業務を行っております。「倉庫事業」は、物品の倉庫保管、保管貨物の運送及び入出庫にかかる諸作業を行い、また、これら事業の関連施設における構内作業を行っております。「タンク洗滌・修理事業」は、石油・化学製品の貯蔵タンクの洗滌及び修理事業等を行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。また、セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント					合計
	石油・ドラム 缶等販売事業	貨物自動車運 送事業	港湾運送及び 通関事業	倉庫事業	タンク洗滌・ 修理事業	
売上高						
外部顧客への売上高	3,203,054	3,461,190	526,272	512,339	854,261	8,557,116
セグメント間の内部 売上高又は振替高	345,914	137,132	152	1,170	1,152	485,520
計	3,548,968	3,598,322	526,424	513,509	855,413	9,042,636
セグメント利益	66,686	177,737	8,572	70,680	44,876	368,551
セグメント資産	1,146,145	2,127,787	255,109	657,538	503,511	4,690,090
その他の項目						
減価償却費	980	109,909	2,900	44,707	14,363	172,859
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	351	140,255	770	60,781	17,906	220,063

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント					合計
	石油・ドラム 缶等販売事業	貨物自動車運 送事業	港湾運送及び 通関事業	倉庫事業	タンク洗滌・ 修理事業	
売上高						
外部顧客への売上高	3,597,710	3,429,655	563,863	491,729	1,255,390	9,338,347
セグメント間の内部 売上高又は振替高	353,679	29,564	-	608	1,543	385,394
計	3,951,389	3,459,219	563,863	492,337	1,256,933	9,723,741
セグメント利益又は損失 ()	52,591	196,021	4,341	81,371	104,414	430,056
セグメント資産	1,295,364	2,113,103	250,971	618,165	713,533	4,991,136
その他の項目						
減価償却費	885	138,903	7,975	44,502	15,210	207,475
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	-	230,332	227	2,291	57,923	290,773

4. 報告セグメント合計額と連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

売上高	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	9,042,636	9,723,741
セグメント間取引消去	485,520	385,394
連結財務諸表の売上高	8,557,116	9,338,347

(単位：千円)

利益	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	368,551	430,056
セグメント間取引消去	5	53
全社費用(注)	315,413	304,890
連結財務諸表の営業利益	53,133	125,219

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(単位：千円)

資産	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	4,690,090	4,991,136
全社資産(注)	1,506,833	1,726,592
連結財務諸表の資産合計	6,196,923	6,717,728

(注) 全社資産は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門に係る資産であります。

(単位：千円)

その他の項目	報告セグメント計		その他		調整額		連結財務諸表計上額	
	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度
減価償却費	172,859	207,475			15,022	19,112	187,881	226,587
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	220,063	290,773			105,370	398	325,433	291,171

(注) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額は、報告セグメントに帰属しない管理部門に係る設備投資額であります。

【関連情報】

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
J X 日鉱日石エネルギー(株)	1,153,705	石油・ドラム缶等販売事業 貨物自動車運送事業 港湾運送及び通関事業 倉庫事業 タンク洗滌・修理事業

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
J X 日鉱日石エネルギー(株)	1,332,125	石油・ドラム缶等販売事業 貨物自動車運送事業 港湾運送及び通関事業 倉庫事業 タンク洗滌・修理事業

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者の取引

連結財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社等

前連結会計年度(自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金(千円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引内容(注)2	取引金額(千円)(注)1	科目	期末残高(千円)(注)1
その他の関係会社の子会社	J X日鉱日石エネルギー(株)	東京都千代田区	139,437,385	石油製品の精製・販売、ガスの輸入・販売、電力の発電・販売		石油製品類の配送・荷役他	ドラム缶購入他	36,615	買掛金	1,418
									未払費用	1,300
							貨物自動車運送等	1,134,430	売掛金	110,862
									未収入金	27
									立替金	1,958

(注) 1 上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2 取引条件ないし取引条件の決定方針

J X日鉱日石エネルギー(株)の石油製品類配送及び荷役作業他、運賃・作業料率、その他の取引については、市場価格、総原価を勘案して当社希望価格を提示し、毎期交渉のうえ、一般的取引条件と同様に決定しております。

当連結会計年度(自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金(千円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引内容(注)2	取引金額(千円)(注)1	科目	期末残高(千円)(注)1
その他の関係会社の子会社	J X日鉱日石エネルギー(株)	東京都千代田区	139,437,385	石油製品の精製・販売、ガスの輸入・販売、電力の発電・販売		石油製品類の配送・荷役他	ドラム缶購入他	39,172	買掛金	2,273
									未払費用	597
							貨物自動車運送等	1,324,012	売掛金	141,134
									未収入金	32
									立替金	1,263

(注) 1 上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2 取引条件ないし取引条件の決定方針

J X日鉱日石エネルギー(株)の石油製品類配送及び荷役作業他、運賃・作業料率、その他の取引については、市場価格、総原価を勘案して当社希望価格を提示し、毎期交渉のうえ、一般的取引条件と同様に決定しております。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者の取引

連結財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社等

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金(千円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引内容(注)2	取引金額(千円)(注)1	科目	期末残高(千円)(注)1
その他の関係会社の子会社	J X日鉱日石エネルギー(株)	東京都千代田区	139,437,385	石油製品の精製・販売、ガスの輸入・販売、電力の発電・販売		石油製品類の購入他	燃料購入他	921,562	買掛金	99,290
							タンク清掃	30,388	売掛金	8,715
							商品販売	334	売掛金	
								未収入金	262	

(注) 1 上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2 取引条件ないし取引条件の決定方針

J X日鉱日石エネルギー(株)の石油製品類の購入及び作業料については、市場価格を勘案して一般的取引条件と同様に決定しております。

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金(千円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引内容(注)2	取引金額(千円)(注)1	科目	期末残高(千円)(注)1
その他の関係会社の子会社	J X日鉱日石エネルギー(株)	東京都千代田区	139,437,385	石油製品の精製・販売、ガスの輸入・販売、電力の発電・販売		石油製品類の購入他	燃料購入他	988,788	買掛金	96,377
							タンク清掃	7,745	売掛金	
							商品販売	368	売掛金	
								未収入金	251	

(注) 1 上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2 取引条件ないし取引条件の決定方針

J X日鉱日石エネルギー(株)の石油製品類の購入及び作業料については、市場価格を勘案して一般的取引条件と同様に決定しております。

(1株当たり情報)

1株当たり純資産額並びに1株当たり当期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
1株当たり純資産額	804円45銭	836円83銭
1株当たり当期純利益金額	5円88銭	14円51銭

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
 2. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎

項目	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
当期純利益(千円)	18,780	46,309
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る当期純利益(千円)	18,780	46,309
普通株式の期中平均株式数(株)	3,191,871	3,191,756

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	818,000	818,000	1.475	
1年以内に返済予定の長期借入金	82,645	48,000	1.704	
1年以内に返済予定のリース債務	63,970	93,438	2.342	
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く)	374,000	355,000	1.704	平成25年～29年
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く)	216,967	281,938	2.342	平成25年～29年
合計	1,555,582	1,596,376		

(注) 1 「平均利率」については、期末借入残高に対する加重平均利率を記載しております。

2 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く)の連結決算日後5年内における返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	338,000	6,000	6,000	5,000
リース債務	91,674	75,501	64,027	37,470

【資産除去債務明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)
不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務	16,050	251	5,058	11,243
石綿障害予防規則に基づくアスベスト除去義務	53,702	255	193	53,764
合計	69,752	506	5,251	65,007

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(千円)	2,210,193	4,516,293	6,813,785	9,338,347
税金等調整前四半期(当期)純利益金額(千円)	2,245	69,181	74,556	122,134
四半期(当期)純利益金額又は四半期純損失金額()(千円)	11,711	30,496	33,876	46,309
1株当たり四半期(当期)純利益金額又は四半期純損失金額()(円)	3.67	9.55	10.61	14.51

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額()(円)	3.67	13.22	1.06	3.90

2【財務諸表等】

(1)【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	662,629	799,276
受取手形	112,502	3 145,337
売掛金	807,955	874,459
リース投資資産	10,302	17,689
商品	12,773	16,736
貯蔵品	27,129	11,732
立替金	72,002	51,541
前払費用	13,882	13,080
繰延税金資産	39,382	37,813
関係会社短期貸付金	115,400	154,200
未収入金	53,027	51,763
その他	2,397	2,111
貸倒引当金	6,111	1,861
流動資産合計	1,923,269	2,173,876
固定資産		
有形固定資産		
建物	1 2,591,001	1 2,599,474
減価償却累計額	1,860,509	1,915,395
建物（純額）	730,492	684,079
構築物	336,858	339,626
減価償却累計額	292,438	297,119
構築物（純額）	44,420	42,507
機械及び装置	113,287	114,220
減価償却累計額	100,584	102,979
機械及び装置（純額）	12,703	11,241
車両運搬具	1,958,635	2,108,561
減価償却累計額	1,793,381	1,928,535
車両運搬具（純額）	165,254	180,026
工具、器具及び備品	190,769	186,385
減価償却累計額	162,370	158,506
工具、器具及び備品（純額）	28,399	27,879
土地	1 1,111,391	1 1,114,544
リース資産	230,402	358,961
減価償却累計額	46,837	113,893
リース資産（純額）	183,565	245,068
有形固定資産合計	2,276,224	2,305,344
無形固定資産		
借地権	1,683	1,683
ソフトウェア	1,994	1,450
その他	4,424	4,580
無形固定資産合計	8,101	7,713

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
投資その他の資産		
投資有価証券	1 437,034	1 525,487
関係会社株式	417,082	370,385
出資金	57,010	57,030
関係会社長期貸付金	41,100	6,900
リース投資資産	34,943	58,374
破産更生債権等	4,123	205
長期前払費用	3,939	3,425
差入保証金	23,125	22,813
保険積立金	22,927	23,515
ゴルフ会員権	875	1,575
その他	6,772	4,721
貸倒引当金	4,123	475
投資その他の資産合計	1,044,807	1,073,955
固定資産合計	3,329,132	3,387,012
資産合計	5,252,401	5,560,888
負債の部		
流動負債		
買掛金	630,794	695,312
短期借入金	1 818,000	1 818,000
1年内返済予定の長期借入金	1 82,645	1 48,000
リース債務	50,516	81,927
未払金	15,464	17,841
未払費用	140,870	157,224
未払事業所税	817	835
未払法人税等	8,093	35,116
未払消費税等	6,693	19,932
賞与引当金	75,799	77,279
預り金	26,786	25,267
流動負債合計	1,856,477	1,976,733
固定負債		
長期借入金	1 374,000	1 355,000
リース債務	190,663	257,920
繰延税金負債	-	8,533
退職給付引当金	542,052	588,117
役員退職慰労引当金	33,731	32,857
資産除去債務	64,501	65,007
その他	429	582
固定負債合計	1,205,376	1,308,016
負債合計	3,061,853	3,284,749

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	160,000	160,000
資本剰余金		
資本準備金	1,072	1,072
資本剰余金合計	1,072	1,072
利益剰余金		
利益準備金	40,000	40,000
その他利益剰余金		
圧縮記帳積立金	253,772	239,796
別途積立金	1,261,000	1,261,000
繰越利益剰余金	396,076	416,064
利益剰余金合計	1,950,848	1,956,860
自己株式	2,030	2,059
株主資本合計	2,109,890	2,115,873
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	80,658	160,266
評価・換算差額等合計	80,658	160,266
純資産合計	2,190,548	2,276,139
負債純資産合計	5,252,401	5,560,888

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
売上高	5,755,825	5,941,464
売上原価	5,372,064	5,554,654
売上総利益	383,761	386,810
販売費及び一般管理費		
役員報酬	50,700	39,179
給料及び手当	180,979	188,213
賞与引当金繰入額	14,140	14,278
退職給付引当金繰入額	15,601	15,388
役員退職慰労引当金繰入額	7,350	8,026
退職給付費用	2,016	1,847
福利厚生費	2,341	2,140
賃借料	19,631	18,080
支払手数料	24,244	19,144
減価償却費	10,897	12,727
その他	51,232	39,440
販売費及び一般管理費合計	379,131	358,462
営業利益	4,630	28,348
営業外収益		
受取利息	1 3,670	1 3,207
受取配当金	1 22,343	1 27,629
営業車両売却益	1,807	3,589
補助金収入	6,864	14,368
雑収入	4,149	6,557
営業外収益合計	38,833	55,350
営業外費用		
支払利息	24,668	21,622
雑支出	1,486	3,327
営業外費用合計	26,154	24,949
経常利益	17,309	58,749
特別利益		
固定資産売却益	2 72	2 145
投資有価証券売却益	15,220	-
貸倒引当金戻入額	24,960	-
抱合せ株式消滅差益	-	31,984
特別利益合計	40,252	32,129
特別損失		
固定資産売却損	3 350	3 41
固定資産除却損	4 6,177	4 537
投資有価証券評価損	-	41,197
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	53,254	-
その他	229	120
特別損失合計	60,010	41,895
税引前当期純利益又は税引前当期純損失()	2,449	48,983
法人税、住民税及び事業税	33,238	49,643
法人税等調整額	18,257	16,262
法人税等合計	14,981	33,381
当期純利益又は当期純損失()	17,430	15,602

【原価明細表】

科目	前事業年度 (自 平成22年 4 月 1 日 至 平成23年 3 月31日)		当事業年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)	
	金額 (千円)	構成比 (%)	金額 (千円)	構成比 (%)
商品仕入費	1,107,713	20.6	1,317,798	23.7
人件費	1,483,393	27.6	1,495,442	26.9
下払費	1,416,705	26.4	1,358,124	24.5
その他	1,364,253	25.4	1,383,290	24.9
当期売上原価	5,372,064	100.0	5,554,654	100.0

【株主資本等変動計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	160,000	160,000
当期末残高	160,000	160,000
資本剰余金		
資本準備金		
当期首残高	1,072	1,072
当期末残高	1,072	1,072
資本剰余金合計		
当期首残高	1,072	1,072
当期末残高	1,072	1,072
利益剰余金		
利益準備金		
当期首残高	40,000	40,000
当期末残高	40,000	40,000
その他利益剰余金		
圧縮記帳積立金		
当期首残高	267,925	253,772
当期変動額		
圧縮記帳積立金の取崩	14,153	13,976
当期変動額合計	14,153	13,976
当期末残高	253,772	239,796
別途積立金		
当期首残高	1,261,000	1,261,000
当期末残高	1,261,000	1,261,000
繰越利益剰余金		
当期首残高	408,943	396,076
当期変動額		
剰余金の配当	9,590	9,590
当期純利益又は当期純損失()	17,430	15,602
圧縮記帳積立金の取崩	14,153	13,976
当期変動額合計	12,867	19,988
当期末残高	396,076	416,064
利益剰余金合計		
当期首残高	1,977,868	1,950,848
当期変動額		
剰余金の配当	9,590	9,590
当期純利益又は当期純損失()	17,430	15,602
圧縮記帳積立金の取崩	-	-
当期変動額合計	27,020	6,012
当期末残高	1,950,848	1,956,860

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
自己株式		
当期首残高	1,970	2,030
当期変動額		
自己株式の取得	60	29
当期変動額合計	60	29
当期末残高	2,030	2,059
株主資本合計		
当期首残高	2,136,970	2,109,890
当期変動額		
剰余金の配当	9,590	9,590
当期純利益又は当期純損失()	17,430	15,602
自己株式の取得	60	29
当期変動額合計	27,080	5,983
当期末残高	2,109,890	2,115,873
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	67,012	80,658
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	13,646	79,608
当期変動額合計	13,646	79,608
当期末残高	80,658	160,266
評価・換算差額等合計		
当期首残高	67,012	80,658
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	13,646	79,608
当期変動額合計	13,646	79,608
当期末残高	80,658	160,266
純資産合計		
当期首残高	2,203,982	2,190,548
当期変動額		
剰余金の配当	9,590	9,590
当期純利益又は当期純損失()	17,430	15,602
自己株式の取得	60	29
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	13,646	79,608
当期変動額合計	13,434	85,591
当期末残高	2,190,548	2,276,139

【重要な会計方針】

1 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

(2) その他有価証券

時価のあるもの

期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

2 たな卸資産の評価基準及び評価方法

(1) 商品

移動平均法による原価法

(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

(2) 貯蔵品

先入先出法(石油製品類は移動平均法)による原価法

(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

3 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法

なお、倉庫用建物のうち京浜支店の浜川崎倉庫は、定額法で行っております。また、平成10年4月1日以降に取得した建物(附属設備を除く)については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は、建物が2～50年、構築物が2～50年、車両運搬具が2～7年であります。

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

4 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付支給に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

なお、会計基準変更時差異(725,389千円)については、15年による按分額を費用処理しております。

数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務年数による定額法により、それぞれ発生の翌事業年度から費用処理しております。

(4) 役員退職慰労引当金

役員の将来の退職慰労金支給に備えて内規に基づく期末要支給額を計上しております。

5 ヘッジ会計の方法

(1) ヘッジ会計の方法

金利スワップについては特例処理を採用しております。

(2) ヘッジ手段とヘッジ対象

長期借入金について金利スワップ取引を採用しております。

(3) ヘッジ方針

金利スワップ取引について長期借入金に対する金利変動リスクの軽減及び実質的な調達コストを軽減する目的で採用しております。

(4) ヘッジ有効性評価の方法

特例処理を採用している金利スワップにつき有効性の評価を省略しております。

6 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

【会計方針の変更】

該当事項はありません。

【表示方法の変更】

該当事項はありません。

【追加情報】

当事業年度の期首以後に行われる会計上の変更及び誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(貸借対照表関係)

1 担保資産及び担保付債務

担保に供されている資産及び担保付債務は以下のとおりであります。

担保に供されている資産

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
土地	1,015,440千円	1,015,440千円
建物	514,999千円	477,539千円
投資有価証券	120,916千円	125,255千円
計	1,651,355千円	1,618,234千円

担保付債務

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
長期借入金	300,000千円	323,000千円
1年以内返済予定の長期借入金	37,960千円	6,000千円
短期借入金	618,000千円	618,000千円
仕入債務保証	150,000千円	150,000千円

2 偶発債務

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
仕入債務保証		
京極石油(株)	260,000千円	260,000千円
借入等債務保証		
京浜京極運送(株)	3,600千円	
(株)TSトランスポート	535千円	
日本容器(株)	15,000千円	15,000千円
(株)ペイトランスポート	2,110千円	703千円
計	21,245千円	15,703千円

(注) 前期末に債務保証を行っていたサンドラム株式会社は、平成23年4月1日付で日本容器株式会社と合併し、現在は日本容器株式会社に商号変更しております。

3 期末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、当期末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形が、期末残高に含まれております。

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
受取手形		31,595千円

(損益計算書関係)

1 関係会社に対するものが、次のとおり含まれております。

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
受取利息	3,411千円	3,025千円
受取配当金	10,184千円	10,648千円

2 固定資産売却益の内訳

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
工具、器具及び備品	72千円	145千円

3 固定資産売却損の内訳

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
車両運搬具		41千円
工具、器具及び備品	350千円	
計	350千円	41千円

4 固定資産除却損の内訳

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
建物	4,806千円	
構築物		108千円
機械及び装置	750千円	
車両運搬具	49千円	
工具、器具及び備品	572千円	429千円
計	6,177千円	537千円

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

自己株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	3,452	155		3,607

(注) 普通株式の株式数の増加155株は、単元未満株式の買取りによる増加であります。

当事業年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

自己株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	3,607	74		3,681

(注) 普通株式の株式数の増加74株は、単元未満株式の買取りによる増加であります。

[次へ](#)

(リース取引関係)

<借主側>

1 ファイナンス・リース取引

(1) リース資産の内容

有形固定資産

主として、貨物自動車運送事業における車両及び管理部門におけるホストコンピュータであります。

(2) リース資産の減価償却方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

2 オペレーティング・リース取引

未経過リース料

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
1年内	24,905千円	17,054千円
1年超	25,882千円	8,828千円
合計	50,787千円	25,882千円

リース取引に関する会計基準適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引

(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

前事業年度(平成23年3月31日)

	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
車両運搬具	904,676千円	594,331千円	310,345千円
工具、器具及び備品	10,831千円	9,593千円	1,238千円
合計	915,507千円	603,924千円	311,583千円

当事業年度(平成24年3月31日)

	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
車両運搬具	816,520千円	622,578千円	193,942千円
工具、器具及び備品	3,479千円	3,285千円	194千円
合計	819,999千円	625,863千円	194,136千円

(2) 未経過リース料期末残高相当額

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
1年内	131,607千円	48,994千円
1年超	55,457千円	6,317千円
合計	187,064千円	55,311千円

(3) 支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額

	前事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
支払リース料	136,451千円	113,918千円
減価償却費相当額	126,217千円	100,450千円
支払利息相当額	6,874千円	3,958千円

(4) 減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零(残価保証の取り決めがある場合は、残価保証額)とする定額法によっております。

(5) 利息相当額の算定方法

リース料総額とリース物件の取得価額相当額の差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっております。

<貸主側>

リース取引に関する会計基準適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引

(1) リース物件の取得価額、減価償却累計額及び期末残高

前事業年度(平成23年3月31日)

	取得価額	減価償却累計額	期末残高
工具、器具及び備品	23,761千円	17,975千円	5,786千円

当事業年度(平成24年3月31日)

	取得価額	減価償却累計額	期末残高
工具、器具及び備品	7,242千円	6,879千円	363千円

(2) 未経過リース料期末残高相当額

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
1年内	6,498千円	808千円
1年超	808千円	
合計	7,306千円	808千円

(注) 未経過リース料期末残高相当額の算定は、未経過リース料残高及び見積残存価額の残高の合計額が営業債権の期末残高等に対して一定割合を下回っているため、受取利子込み法によっております。

(3) 受取リース料及び減価償却費

	前事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
受取リース料	7,006千円	6,498千円
減価償却費	3,286千円	1,155千円

(有価証券関係)

前事業年度(平成23年3月31日)

子会社株式及び関連会社株式の貸借対照表計上額227,509千円は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、記載しておりません。

当事業年度(平成24年3月31日)

子会社株式及び関連会社株式の貸借対照表計上額192,509千円は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、記載しておりません。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
繰延税金資産		
未払事業税	1,483千円	3,264千円
賞与引当金	30,463千円	28,987千円
退職給付引当金	217,851千円	211,418千円
役員退職慰労引当金	13,556千円	12,325千円
資産除去債務	25,923千円	22,844千円
投資有価証券評価損		14,492千円
その他	10,731千円	8,201千円
繰延税金資産小計	300,007千円	301,531千円
評価性引当額	28,420千円	39,543千円
繰延税金資産合計	271,587千円	261,988千円
繰延税金負債		
資産除去債務に対応する除去費用	4,175千円	3,385千円
その他有価証券評価差額金	54,199千円	86,829千円
固定資産圧縮積立金	170,525千円	142,494千円
繰延税金負債合計	228,899千円	232,708千円
繰延税金資産の純額	42,688千円	29,280千円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異のあるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
法定実効税率	40.2%	40.2%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	177.0%	8.0%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	191.4%	12.3%
住民税均等割額	135.8%	6.8%
評価性引当額の増減	530.9%	34.2%
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正		19.1%
抱合株式消滅差益		26.2%
その他	0.4%	1.7%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	611.7%	68.1%

3 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律及び東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法が平成23年12月2日に公布されたことに伴い、当事業年度の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算において使用した法定実効税率は、前事業年度の40.19%から、回収又は支払が見込まれる期間が平成24年4月1日から平成27年3月31日までのものは37.51%、平成27年4月1日以降のものについては35.14%にそれぞれ変更されております。

その結果、繰延税金負債の金額(繰延税金資産の金額を控除した金額)が3,007千円減少し、当事業年度に計上された法人税等調整額が9,348千円、その他有価証券評価差額金が12,355千円、それぞれ増加しております。

(企業結合等関係)

当事業年度(自平成23年4月1日至平成24年3月31日)

取得による企業結合

- (1) 連結財務諸表の注記事項(企業結合等関係)における記載内容と同一であるため、記載しておりません。

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの

(1) 当該資産除去債務の概要

車庫施設用土地の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務及び事務所・倉庫用建物における石綿障害予防規則に基づくアスベスト除去義務であります。

(2) 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を取得から3~52年と見積り、割引率は0.36~2.29%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

(3) 当該資産除去債務の総額の増減

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
期首残高(注)	64,758千円	64,501千円
有形固定資産の取得に伴う増加額		
時の経過による調整額	499千円	506千円
資産除去債務の履行による減少	756千円	
期末残高	64,501千円	65,007千円

(注) 前事業年度の「期首残高」は「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用したことによる残高です。

(1株当たり情報)

1株当たり純資産額並びに1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
1株当たり純資産額	685円32銭	712円11銭
1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額()	5円45銭	4円88銭

(注) 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額について、前事業年度は1株当たり当期純損失であり、潜在株式が存在しないため、当事業年度は潜在株式が存在しないため記載しておりません。

項目	前事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
当期純利益又は当期純損失() (千円)	17,430	15,602
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る当期純利益又は 当期純損失()(千円)	17,430	15,602
普通株式の期中平均株式数(株)	3,196,470	3,196,356

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有価証券明細表】

【株式】

銘柄		株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)	
投資有価証券	その他有価証券	J F E コンテナ(株)	636,000	238,500
		(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	170,810	70,374
		日本瓦斯(株)	40,000	52,360
		(株)三菱ケミカルホールディングス	75,455	33,351
		三菱UFJリース(株)	7,050	25,662
		京橋運送(株)	33,411	16,706
		(株)横浜銀行	32,100	13,289
		星光PMC(株)	40,000	13,280
		東部ネットワーク(株)	20,000	11,940
		東洋容器(株)	50,000	9,000
		その他(18銘柄)	162,177	41,025
計		1,267,003	525,487	

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価 償却累計額 又は償却累 計額(千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末 残高 (千円)
有形固定資産							
建物	2,591,001	8,692	219	2,599,474	1,915,395	54,326	684,079
構築物	336,858	3,324	556	339,626	297,119	5,209	42,507
機械及び装置	113,287	933		114,220	102,979	1,520	11,241
車両運搬具	1,958,635	254,795	104,869	2,108,561	1,928,535	78,163	180,026
工具、器具及び備品	190,769	3,535	7,919	186,385	158,506	3,226	27,879
土地	1,111,391	3,153		1,114,544			1,114,544
リース資産	230,402	128,559		358,961	113,893	51,401	245,068
有形固定資産計	6,532,343	402,991	113,563	6,821,771	4,516,427	193,845	2,305,344
無形固定資産							
借地権				1,683			1,683
ソフトウェア				2,719	1,269	544	1,450
その他				4,580			4,580
無形固定資産計				8,982	1,269	544	7,713
長期前払費用	13,465	1,534	4,696	10,303	6,878	2,048	3,425

(注) 1 有形固定資産の当期増加額及び減少額の内、主なものは次のとおりであります。

資産の種類	増減区分	セグメントの名称	金額 (千円)	セグメントの名称	金額 (千円)
建物	増加額	貨物自動車運送事業	7,326	港湾運送及び通関事業	590
	減少額	貨物自動車運送事業	219		
構築物	増加額	貨物自動車運送事業	3,324		
	減少額	倉庫事業	336	貨物自動車運送事業	220
機械及び装置	増加額	港湾運送及び通関事業	934		
車両運搬具	増加額	港湾運送及び通関事業	167,747	貨物自動車運送事業	77,877
	減少額	貨物自動車運送事業	87,209	全社管理業務	17,660
工具、器具及び備品	増加額	倉庫事業	2,291	港湾運送及び通関事業	684
	減少額	倉庫事業	4,300	全社管理業務	2,839
土地	増加額	貨物自動車運送事業	3,153		
リース資産	増加額	貨物自動車運送事業	78,987	港湾運送及び通関事業	39,612

なお、当期増加額には、京浜京極運送株式会社との合併により、建物590千円、機械及び装置934千円、車両運搬具167,747千円、工具、器具及び備品456千円及びリース資産31,532千円の増加額を含んでおります。

2 無形固定資産の金額が総資産額の100分の1以下であるため、「当期首残高」、「当期増加額」及び「当期減少額」の記載を省略しております。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金 (注)	10,234	2,336	3,403	6,831	2,336
賞与引当金	75,799	77,279	75,799		77,279
役員退職慰労引当金	33,731	8,026	8,900		32,857

(注) 貸倒引当金の当期減少額(その他)は、債権回収による取崩額720千円、一般債権の貸倒実績率による洗替額6,111千円であります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

当事業年度末(平成24年3月31日現在)における主な資産及び負債の内容は次のとおりであります。

現金及び預金

区分		金額(千円)
現金		3,021
預金	当座預金	308,124
	普通預金	118,131
	通知預金	290,000
	定期預金	80,000
	計	796,255
合計		799,276

受取手形

相手先	金額(千円)
天満容器(株)	108,622
ナガオ(株)	15,898
(有)臼井容器	15,737
三光(株)	2,395
(株)キモトドラム	1,412
その他	1,273
合計	145,337

決済期日別内訳

期日	平成24年4月	5月	6月	7月	合計
金額(千円)	40,251	54,758	21,440	28,888	145,337

売掛金

相手先	金額(千円)
J X 日鉱日石エネルギー(株)	141,134
日立物流ファインネクスト(株)	109,428
星光PMC(株)	96,174
J F E コンテナ(株)	88,824
D I C 九州ポリマ(株)	42,444
その他	396,455
合計	874,459

売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

当期首残高 (千円) (A)	当期発生高 (千円) (B)	当期回収高 (千円) (C)	当期末残高 (千円) (D)	回収率(%) $\frac{(C) \times 100}{(A) + (B)}$	滞留期間 (日) $\frac{((A) + (D)) \times 366}{2 \times (B)}$
807,955	6,229,553	6,163,049	874,459	87.6	49.4

(注) 消費税等の会計処理は、税抜方式を採用しておりますが、上記「当期発生高」には、消費税等が含まれております。

たな卸資産

商品

品名	金額(千円)
ドラム缶	16,736

貯蔵品

品名	金額(千円)
石油製品類	9,127
その他	2,605
合計	11,732

関係会社株式

	銘柄	金額(千円)
子会社 株式	京極石油(株)	40,000
	日本タンクサービス(株)	39,509
	(株)T S トランスポート	90,000
	計	169,509
関連会社 株式	(株)弥生京極社	23,000
	計	23,000
その他 関係会社 株式	J Xホールディングス(株)	115,473
	J Xホールディングス(株)持株会	62,403
	計	177,876
	合計	370,385

買掛金

相手先	金額(千円)
J F E コンテナ(株)	222,546
関東運送事業協同組合	40,981
(株)山本工作所	33,140
菱華運輸(株)	29,157
京極石油(株)	28,863
その他	340,625
合計	695,312

短期借入金

相手先	金額(千円)
三菱U F J 信託銀行(株)	170,000
(株)三菱東京U F J 銀行	270,000
(株)横浜銀行	178,000
(株)みずほコーポレート銀行	100,000
(株)三井住友銀行	100,000
合計	818,000

長期借入金

相手先	金額(千円)
三菱UFJ信託銀行(株)	300,000
明治安田生命保険相互会社	29,000
商工組合中央金庫	74,000
合計	403,000

(注) 長期借入金には1年内返済予定の長期借入金が48,000千円含まれております。

退職給付引当金

区分	金額(千円)
退職給付債務	791,306
年金資産	
会計基準変更時差異の未処理額	135,042
未認識数理計算上の差異	68,145
未認識過去勤務債務	2
合計	588,117

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日、3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	東京都において発行する日本経済新聞
株主に対する特典	該当事項なし

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は次に掲げる権利以外を行使することができません。

1. 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
2. 取得請求権付株式の取得を請求する権利
3. 募集株式または募集新株予約権の割当を受ける権利

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社は、親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

- | | | |
|-----------------------------|---|--------------------------|
| (1) 有価証券報告書
及びその添付書類、確認書 | (事業年度 自 平成22年4月1日
(第71期) 至 平成23年3月31日) | 平成23年6月29日
関東財務局長に提出 |
| (2) 内部統制報告書 | (事業年度 自 平成22年4月1日
(第71期) 至 平成23年3月31日) | 平成23年6月29日
関東財務局長に提出 |
| (3) 四半期報告書及び確認書 | (第72期第1四半期 自 平成23年4月1日
至 平成23年6月30日) | 平成23年8月12日
関東財務局長に提出 |
| | (第72期第2四半期 自 平成23年7月1日
至 平成23年9月30日) | 平成23年11月14日
関東財務局長に提出 |
| | (第72期第3四半期 自 平成23年10月1日
至 平成23年12月31日) | 平成24年2月14日
関東財務局長に提出 |
| (4) 臨時報告書 | 企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2
(株主総会における議決権行使の結果)に基づく臨時報告書であります。 | 平成23年7月1日
関東財務局長に提出 |

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成24年 6月14日

京極運輸商事株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士 茂木 浩之
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士 中 原 健

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている京極運輸商事株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益及び包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、京極運輸商事株式会社及び連結子会社の平成24年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、京極運輸商事株式会社の平成24年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、京極運輸商事株式会社が平成24年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が連結財務諸表に添付する形で別途保管しております。
- 2 連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成24年6月14日

京極運輸商事株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 茂木 浩之

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 中 原 健

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている京極運輸商事株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの第72期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、京極運輸商事株式会社の平成24年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が財務諸表に添付する形で別途保管しております。

2 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。